

一般社団法人日本数式処理学会 L^AT_EX スタイルファイル jssac.sty, page.sty v10.1

Tomokatsu SAITO
saito@jssac.org

2021/03/05

Abstract

jssac.sty は、一般社団法人日本数式処理学会の学会誌『数式処理』の原稿を記述し、製版するための pL^AT_EX2e のスタイルファイルである。page.sty は会誌の目次等を作成するスタイルファイルである。

1 始めに

配布形式は、L^AT_EX2e の標準の配布形式である DocStrip ユーティリティにより構成されている。jssac.sty, page.sty は、jssac.dtx と jssac.ins より作成される。作成法は、platex jssac.ins により必要なスタイルファイルとその解説が生成される。jssac.ins, jssac.dtx, jssac.sty, page.sty の著作権は、一般社団法人日本数式処理学会に帰属する。

2 jssac.sty の実行にあたって必要なスタイルファイル

jssac.sty の実行にあたって必要なスタイルファイルは、必ず必要になるスタイルファイルとオプションの選択により要求されるスタイルファイルに分けられる。

オプション名	必要なスタイルファイル
必須	fontenc.sty
必須	amsfont.sty
必須	newtxtext.sty
必須	newtxmath.sty
必須	txfonts.sty
theorem	theorem.sty
FVerb	moreverb.sty
AMS	amsmath.sty
HREF	hyperref.sty
usegraph	color.sty,graphicx.sty

3 jssac.sty ヘッダー

jssac.sty のヘッダー部分である．簡単な jssac.sty の使い方, Copyright など, 最低限の注意事項が記載されている．`\maketitle` は, `\begin{document}` の中で自動的に呼ばれるため必要ではない, しかし書かれていても `\begin{document}` の中で `\relax` に再定義されるため無視される．投稿を編集するににあたって, 投稿ファイル以外に `headline.tex` が必須である．このファイルは, 編集作業者が作成する．`headline.tex` は, `\art`, `\title`, `\author` などが含まれているとする．編集モードでは, 所定の場所に `vol.tex` が存在しなければならない．

```

1 <*jssac>
2 %% LaTeX2e Style File for " 数式処理 (Bulletin of JSSAC)"
3 %%   published by Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation
4 %%
5 %% jssac.sty Copyright (C) 2003
6 %% Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation
7 %%   by Tomokatsu Saito saito@jssac.org
8 %%
9 %% Usage::
10 %%   You make headline.tex. This file include next items.
11 %%   \art{種目} 論文, ノート, 記録, ...
12 %%   \title{原稿のタイトル}
13 %%   \author{著者 1\mail{E-mail address}\affil{所属}\former{旧姓} \and
14 %%           著者 2\mail{E-mail address}\affil{所属}\former{旧姓} ...}
15 %%
16 %%   And, paper body, Main file preamble only include
17 %%   \usepackage[option]{jssac}.
18 %%
19 %%   \documentclass{jarticle}
20 %%   \usepackage[option]{jssac}
21 %%   \begin{document}

```

```

22 %% Option setting
23 %% English, FVerb, usepdf, useeps, theorem, nojis, LatexMode, HREF, AMS,
24 %% Editor, Tombow, Tombowdate, Sty, NoTitle
25 %%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%
26 \NeedsTeXFormat{LaTeX2e}[1995/12/01]
27 \ProvidesPackage{jssac}[2021/03/05 v10.1 jssac package]

```

4 counter

\SP jssac.sty 内部で利用するカウンタの定義と初期値である .

counter 名称	初期値	意味
\SP	1	スタートページを格納
\EP	1	最終ページを格納

```

28 \newcount\SP\SP=1%
29 \newcount\EP\EP=1%

```

5 ifフラッグ

5.1 ifの定義

\ifEditor	jssac.sty の動作状態を変化させるため、内部で必要とする if フラッグの定義とその初期値である .		
\ifAMS			
\ifLang			
\ifLatexMode	if フラッグ名	初期値	意味
\ifmoreverb	\ifEditor	\Editorfalse	編集モードの切替え
\ifgraphics	\ifAMS	\AMSfalse	amsmath.sty の利用
\iftheorem	\ifLang	\Langfalse	英文モード
\iftombow	\ifLatexMode	\LatexModefalse	pL ^A T _E X ではなく L ^A T _E X にする
\iftombowdate	\ifmoreverb	\moreverbfalse	moreverb.sty の利用
\ifHREF	\ifgraphics	\graphicsfalse	graphicx.sty の利用
\ifSty	\ifthorem	\theoremfalse	thorem.sty の利用
\ifNoTitle	\iftombow	\tombowfalse	トンボの設定
\ifOdd	\iftombowdate	\tomboedatefalse	トンボに日付を入れる
\ifJisFont	\ifHREF	\PDFfalse	hyperref 付きの pdf を作る
	\ifSty	\Styfalse	Jssac 書式など書面印刷
	\ifNoTitle	\NoTitlefalse	タイトルを表示しない
	\ifOdd	\Oddfalse	奇数起こし原稿
	\ifJisFont	\JisFonttrue	Jssac 書式など書面印刷

```

30 \newif\ifEditor\Editorfalse%
31 \newif\ifLatexMode\LatexModefalse%
32 \newif\ifAMS\AMSfalse%
33 \newif\ifLang\Langfalse%
34 \newif\ifmoreverb\moreverbfalse%
35 \newif\ifgraphics\graphicsfalse%
36 \newif\ifColor\Colorfalse%
37 \newif\iftheorem\theoremfalse%
38 \newif\iftombow\tombowfalse%
39 \newif\iftombowdate\tombowdatefalse%
40 \newif\ifHREF\HREFfalse%
41 \newif\ifSty\Styfalse%
42 \newif\ifNoTitle\NoTitlefalse%
43 \newif\ifOdd\Oddfalse%
44 \newif\ifJisFont\JisFonttrue%

```

ここで `\ifJisFont` だけは初期値が `true` が設定されている。

5.2 環境設定オプション

`jssac.sty` は, 画像ファイル, 定理環境, ワク付き `verb` 環境などさまざまなオプションを用意している。オプションは, 必要なだけ複数コンマで区切って並べる。オプション宣言により `\newif` で宣言されている `if` のの真偽を設定される。オプションを宣言しない場合は `false` に設定される。

オプション名	対応するif	設定の意味
Editor	<code>\ifEditor</code>	編集者モード
NoEditor	<code>\ifEditor</code>	非編集者モード
LatexMode	<code>\ifLatexMode</code>	Latex にする
English	<code>\ifLang</code>	英文に設定
nojis	<code>\ifJisFont</code>	Jis font 使用
FVerb	<code>\ifmoreverb</code>	<code>moreverb</code> の利用
usegraph	<code>\ifgraphics</code>	<code>graphicx</code> の利用
theorem	<code>\ifthorem</code>	<code>thorem</code> の利用
AMS	<code>\ifAMS</code>	<code>amsmath</code> の利用
Tombow	<code>\iftombow</code>	トンボの出力
Tombowdate	<code>\iftombowdate</code>	トンボに日時を追加
HREF	<code>\ifHREF</code>	<code>hyperref</code> 環境の利用
NoHREF	<code>\ifHREF</code>	<code>hyperref</code> 環境の利用
Sty	<code>\ifSty</code>	<code>jssac</code> 書式の利用
Color	<code>\ifusecolor</code>	<code>usegraph</code> と <code>Color</code> の処理

5.2.1 Editor オプション

Editor 編集作業のためのオプションである．

```
45 \DeclareOption{Editor}{\Editortrue}%  
46 \IfFileExists{../vol.tex}{\Editortrue}{}%
```

編集モードはオプションによる設定以外に製版時のディレクトリの1つ上位のディレクトリにvol.tex ファイルが存在した場合自動的に編集モードに設定される．オプション引数の設定が優先される．

5.2.2 NoEditor オプション

NoEditor 編集作業ではないことを積極的に宣言するためのオプションである．オプション引数の設定が優先される．また非編集モードはトンボは出力されない．デフォルトはNoEditor である．

```
47 \DeclareOption{NoEditor}{\Editorfalse}%  
48 \ifEditor\else\tombowfalse\fi%
```

5.2.3 English オプション

English キーワード等の日本語と英語の切り替えである．デフォルトは日本語である．タイトル等の文字列を変えている．原稿が英文原稿の場合は, jssac.sty のオプションで

```
\usepackage[English]{jssac}
```

とする．デフォルトは日本語である．

```
49 \DeclareOption{English}{\Langtrue}%
```

5.2.4 LatexMode オプション

LatexMode p \LaTeX 2e ではなく \LaTeX 2e を使うことを宣言するオプションである．jssac.sty は, p \LaTeX 2e を利用することが前提である．しかし, p \LaTeX 2e が利用できない状況の場合, \LaTeX 2e によって原稿を作成することができるようにするオプションである．

```
\usepackage[LatexMode]{jssac}
```

とすれば, 日本語は利用できないが \LaTeX 2e により jssac.sty を利用することができる．当然この場合は, 英語モードに設定される．このオプションは例外的に利用する．

```
50 \DeclareOption{LatexMode}{\LatexModetrue}%
```

5.2.5 nojis オプション

nojis 日本語製版時に jis font を利用しないことを宣言する．通常は jis font を利用する．このオプションは例外的に利用する．

```
51 \DeclareOption{nojis}{\JisFontfalse}%
```

5.2.6 FVerb オプション

FVerb 『数式処理』の原稿の中にプログラム等のプレーンテキストを入れる場合 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}2_{\epsilon}$ の `\verb` か `verbatim` を利用する事が一般的だ．しかしテキストを枠で囲む必要があった場合は、細かい処理をする必要がある．そこで `jssac.sty` ではフレーム付の `verbatim` モードを用意した．オプションの宣言は

```
\usepackage[FVerb]{jssac}
```

である．当初は `fancybox.sty` を利用したスタイルファイルになっていたが、タグ付 pdf を作成する場合にパッケージ間に問題が発生したため `moreverb.sty` に変更した．(`jssac.dtx` version 4 以降)

```
52 \DeclareOption{FVerb}{\moreverbtrue}%
```

5.2.7 usegraph オプション

usegraph `jssac.sty` の場合、図 (pdf もしくは eps 画像) を入れるときはこのオプションを設定しなければならない．pdf の図は `BoundingBox` が無いため `\includegraphics` の引数に直接 `BoundingBox` の値を記述する必要がある．`\includegraphics[bb=0 0 250 200]{pdf ファイル名}` とする．もしくは、pdf ファイル名.xbb ファイルを作成すれば $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ は直接読み込むためこの `BoundingBox` は必要ない．

```
\usepackage[usegraph]{jssac}
```

により設定される．このオプションにより `graphicx.sty` を `dvifmx` オプション付きで利用するように設定される．

```
53 \DeclareOption{usegraph}{\graphicstrue}%
```

eps 画像の場合は、図は `BoundingBox 0 0` である Encapsulated PostScript 形式のファイルであることを要求する．

このオプションにより `graphicx.sty` を `dvifmx` オプション付きで利用するように設定される．また、ドライバーの関係により `BoundingBox` は `0 0` から始まっていることを想定している。

useeps 旧来のバージョンとの互換性のために残されたオプション 画像処理のオプションとして `useeps` が存在するが今後は `usegraph` を使うこととする．古いバージョンとの互換性のため次の宣言を追加する．

```
54 \DeclareOption{useeps}{\graphicstrue}%
```

5.2.8 theorem オプション

theorem `jssac.sty` において定理環境を利用するためには次の宣言が必要である．

```
\usepackage[theorem]{jssac}
```

定理等の用語は日本語、英語により区別され出力される．

```
55 \DeclareOption{theorem}{\theoremtrue}%
```

5.2.9 AMS オプション

AMS amsmath.sty の利用をする場合に使う．オプションの宣言は

```
\usepackage[AMS]{jssac}
```

である．amsmath.sty を要求する．

```
56 \DeclareOption{AMS}{\AMStrue}%
```

5.2.10 Tombow オプション

Tombow トンボを出力するオプションである．通常は、Editor モードの場合出力される．オプション引数の設定が優先される．デフォルトはTombow である．

```
57 \DeclareOption{Tombow}{\tombowtrue}%
```

5.2.11 NoTombow オプション

NoTombow トンボを出力を抑制オプションである．通常は、このモードである．オプション引数の設定が優先される．デフォルトはNoTombow である．

```
58 \DeclareOption{NoTombow}{\tombowfalse}%
```

```
59 \iftombow\tombowdatetrue\else\tombowdatefalse\fi%
```

5.2.12 Tombowdate オプション

Tombowdate トンボ領域に処理年月日を出力するオプションである．オプションの宣言は

```
\usepackage[Tombowdate]{cjssac}
```

である．

```
60 \DeclareOption{Tombowdate}{\tombowdatetrue}%
```

```
61 \iftombow\tombowdatetrue\else\tombowdatefalse\fi%
```

5.2.13 HREF オプション

HREF href による索引をつけるためのオプションである．オプション引数の設定が優先される．

```
62 \DeclareOption{HREF}{\HREFtrue}%
```

5.2.14 WebTombow ファイルの存在などによる設定

WebTombow 処理している L^AT_EX ファイルの親ディレクトリにWebTombow が存在すれば hyperref をつけるHREF である．ファイルの内容は問わない．

```
63 \IfFileExists{../WebTombow}{\HREFtrue}{}%
```

5.2.15 NoHREF オプション

NoHREF href による索引をつけないためのオプションである．オプション引数の設定が優先される．デフォルトはNoHREF である．

```
64 \DeclareOption{NoHREF}{\HREFfalse}%
```

5.2.16 NoTitle オプション

NoTitle 製版に表題を印字しないためのオプションである．

```
65 \DeclareOption{NoTitle}{\NoTitletrue}%
```

5.2.17 Color オプション

Color 製版をカラー出力するためのオプションである．この宣言はusegraph と同様の処理と color.sty を読み込む、

```
66 \DeclareOption{Color}{\Colortrue}%
```

5.2.18 Sty オプション

Sty (一社) 日本数式処理学会書式のためのオプションである．

```
67 \DeclareOption{Sty}{\Stytrue}%
```

5.2.19 NoSty オプション

NoSty (一社) 日本数式処理学会書式ではないことを宣言するオプションである．

```
68 \DeclareOption{NoSty}{\Styfalse}%
```

5.3 オプション宣言の終了

オプションの終了処理である．

```
69 \ProcessOptions\relax%
```

6 パッケージの読み込み

6.0.1 amsmath の読み込み

amsmath amsmath と time 系のフォントがぶつかるため必要なら事前に読み込む \AMS が真の場合amsmath.sty パッケージを読み込む．

```
70 \ifAMS\RequirePackage{amsmath}\fi%
```


6.1 必須パッケージの読み込み

6.1.1 txfonts の読み込み

txfonts txfonts.sty を読み込む .
71 \RequirePackage{txfonts}%

6.1.2 fontenc の読み込み

fontenc fontenc.sty を読み込む .
72 \RequirePackage[T1]{fontenc}

6.2 オプションパッケージの読み込み

オプションで設定した if の真偽値にしたがい必要なパッケージを読み込む .

6.2.1 hyperref 付き pdf の作成の読み込み

\ifHREF \ifHREF が真の場合以下の処理をする .
\AtBeginDvi

1. 索引付き pdf ファイルの作成のためgraphicxを読み込む . タグの文字コードを UCS2 にするために \AtBeginDvi{\special{pdf:tounicode EUC-UCS2}}を設定する .
2. ドライバにdvipdfmx を加える .

73 \ifHREF%
74 \AtBeginDvi{\special{pdf:tounicode EUC-UCS2}}%
75 \RequirePackage[dvipdfmx,CJKbookmarks=true]{hyperref}\fi%

6.2.2 graphicx の読み込み

\ifgraphics \graphics が真の場合graphicx.sty パッケージを読み込む . またcolor.sty も併せて読み込むものとする . graphicx.sty のドライバーはdvipdfmx である .
76 \ifgraphics\RequirePackage[dvipdfmx]{graphicx}%
77 \RequirePackage{color}\fi%

6.2.3 Color の読み込み

\Color Color オプションが宣言された場合はgraphics オプションと同様の処理を行う . 加えてcolor.sty を読み込む .
78 \ifColor%
79 \RequirePackage[dvipdfmx]{graphicx}%
80 \RequirePackage{color}%
81 \graphicstrue\fi%

6.2.4 moreverb の読み込み

```
moreverb \moreverb が真の場合moreverb.sty パッケージを読み込む .  
82 \ifmoreverb\RequirePackage{moreverb}\fi%
```

6.2.5 thorem の読み込み

```
\theorem \theorem が真の場合theorem.sty パッケージの読み込む .  
83 \iftheorem\RequirePackage{theorem}\fi%
```

6.2.6 L^AT_EX2e オプション

```
LatexMode \LatexMode が真の場合, 英語モード, Jis Font 不使用, トンボの設定のための長さ  
と \textgt を設定する .  
84 \ifLatexMode%  
85 \Langtrue%  
86 \JisFontfalse%  
87 \newdimen\@tombowwidth%  
88 \let\textgt\textbf%  
89 \fi%
```

7 種々のマクロの定義

「数式処理」で利用される種々の名称や住所などを定義するセクションである .

7.1 名称

7.1.1 法人名, 名称等の定義

```
\ORG \ORG 組織名称, \ORGE 組織名称英語表記  
\ORGE 90 \def\ORG{日本数式処理学会}%  
91 \def\ORGE{Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation}%  
  
\  法人の \ 略社法人略社を定義する. 略称は, 内閣府の指導による.  
略社 92 \expandafter\def\csname  略社 \endcsname{一般社団法人 \ORG}%  
93 \expandafter\def\csname 略社 \endcsname{(一社)\ORG}%
```

7.1.2 \JSSAC, \Jssac のロゴ定義

```
\JSSAC \JSSAC と \Jssac の文字を定義する .  
\Jssac 94 \def\JSSAC{\textit{JSS}\hspace{-0.2ex}A\hspace{-0.3ex}C }%  
95 \def\Jssac{\textsc{Jssac}}%
```

7.1.3 住所等

`\@addressA` 住所のデフォルトを定義する (2013 年 2 月 1 日の値である) .
`\@addressB` 住所は, `\ADDRESSA`, 住所細分は `\ADDRESSB` に格納されている . 英語表記はそれぞれ `\ADDRESSAE`, `\ADDRESSBE` である . 電話は `\TEL`, FAX は `\FAX` である . しかし現在には両方とも `\empty` と定義している .

```
\ADDRESSA 96 \def\ZIP{102--0074}%
\ADDRESSB 97 \def\ADDRESSA{東京都千代田区九段南一丁目 5 番 6 号}%
           98 \def\ADDRESSB{リそな九段ビル 5F KS フロア}%
\ADDRESSAE 99 \def\ADDRESSAE{1-5-6 Kudan-minami, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan}%
\ADDRESSBE 100 \def\ADDRESSBE{Resona-Kudan Building 5F KS-floor}%
\TEL       101 \def\TEL{\empty}%
\FAX       102 \def\FAX{\empty}%
```

7.2 数学記号の設定

7.2.1 `\normal` サイズのめの数記号

`\C` `\C`, `\R`, `\Q`, `\Z`, `\N` などの文字を定義する . `\mathbb` を利用する .

```
\R 103 \newcommand{\C}{\mbox{$\mathbb{C}$}}%
\Q 104 \newcommand{\R}{\mbox{$\mathbb{R}$}}%
    105 \newcommand{\Q}{\mbox{$\mathbb{Q}$}}%
\Z 106 \newcommand{\Z}{\mbox{$\mathbb{Z}$}}%
\N 107 \newcommand{\N}{\mbox{$\mathbb{N}$}}%
```

7.2.2 `\small` サイズのの数記号

`\SC` `\mathbb` による数学記号 `\small` サイズの `\SC`, `\SR`, `\SQ`, `\SZ`, `\SN` の文字を定義する . `\mathbb` を利用している .

```
\SQ 108 \newcommand{\SC}{\mbox{\small$\mathbb{C}$}}%
\SZ 109 \newcommand{\SR}{\mbox{\small$\mathbb{R}$}}%
    110 \newcommand{\SQ}{\mbox{\small$\mathbb{Q}$}}%
\SN 111 \newcommand{\SZ}{\mbox{\small$\mathbb{Z}$}}%
\qed 112 \newcommand{\SN}{\mbox{\small$\mathbb{N}$}}%
```

7.2.3 `amsmath.sty` で定義されている数学記号

`\Bbb` `amsmath.sty` で定義されている数学記号

```
\Bbbs 113 \font\msbmbbs=msbm10%
        114 \font\msbmbb=msbm10 scaled \magstep1%
        115 \def\Bbb#1{\mbox{\msbmbb\relax#1}}%
        116 \def\Bbbs#1{\mbox{\msbmbbs\relax#1}}%
```

7.2.4 雑多な数学記号

`\qed`

```
117 \newcommand{\qed}{\hbox{\rule[-2pt]{3pt}{6pt}}}%
```

7.3 一般的なマクロ

7.3.1 文字の重ね合わせのマクロ

`\Kasane` 引数の 2 つの文字を重ね合わせるマクロである .

```
118 \def\Kasane#1#2{\ooalign{\hfil\hbox{#1}\hfil\cr\hfil\hbox{#2}\hfil}}%
```

7.3.2 丸で文字を囲む

`\Maru` 特に文字を丸で囲むマクロは同様に `\Maru` により用意する . 単純に丸で囲む場合は, `\bigcirc` 命令により丸で囲むことは可能である .

```
119 \def\Maru#1{\ooalign{\hfil\hbox{\huge$\bigcirc$}\hfil\cr\hfil\hbox{#1}\hfil}}%
```

7.3.3 ローマ数字出力

`\rnum` 引数の数値をローマ数字として出力するマクロである .

```
120 \def\rnum#1{\expandafter{\romannumeral #1}}%
```

`\Rnum` 引数の数値を大文字のローマ数字として出力するマクロである .

```
121 \def\Rnum#1{\uppercase\expandafter{\romannumeral #1}}%
```

7.3.4 均等割り付け

`\kintou` 日本語の均等割り付けのためのマクロコード `\kintou{< 長さ >}{< 文字列 >}`

```
122 \def\kintou#1#2{%
123   \hbox to#1{%
124     \ifundefined{jintercharskip}{%
125       \kanjiskip=0pt plus 1fill minus 1fill%
126       \xkanjiskip=\kanjiskip #2}{%
127       \jintercharskip=0pt plus 1fill minus 1fill%
128       \jasciikanjiskip=\jintercharskip #2}}}%
```

7.3.5 右詰めで出力

`\crright` 改行して右詰めで出力するマクロである

```
129 \def\crright{\par\hfill}%
```

7.3.6 フォント dg の定義

\dg \textbf の別名
130 \def\dg{\textbf}%

7.3.7 \caption の設定マクロ

\@capttype table, figure 環境以外でも \caption を利用できるようにするための設定
131 \def\@casubptype{figure}%
132 \def\@capttype{table}%

7.3.8 脚注の文字の設定

\thefootnote \footnote の引用番号をアラビア数字にするためのマクロ
133 \def\thefootnote{\arabic{footnote}}%

7.3.9 謝辞を記載する環境の定義

acknowledgements 謝辞を記載する環境の定義である .
134 \def\acknowledgements#1{\section*{\hbox to\hsize{\hss\the@ck\hss}}#1}%
135 \def\endacknowledgements{\par}%

7.3.10 quotation 環境の定義

quotation 日本語環境において quotaion 環境のparindent を調整する .
136 \ifLang%
137 \else%
138 \renewenvironment{quotation}%
139 {\list{}{\listparindent 1\Cwd%
140 \itemindent \listparindent%
141 \rightmargin \leftmargin%
142 \parsep \z@ \@plus\p@}%
143 \item\relax}%
144 {\endlist}%
145 \fi%

7.3.11 abstract を記載する環境の定義

abstract abstract 環境はフォントサイズは \small とし本体としては \quotation を利用する . また abstract 環境の先頭はインデントをしないように設定している . 英文の場合, 環境を出た段階で英文の本来の \baselineskip である 12pt に改行幅を再設定する .
146 \ifLang%
147 \renewenvironment{abstract}{%

```

148 \small\begin{center}{\bfseries \abstractname\vspace{-.5em}\vspace{\z@}}%
149 \end{center}\quotation\noindent}%
150 {\endquotation\global\baselineskip=12pt}%
151 \else%
152 \renewenvironment{abstract}{%
153 \small\begin{center}{\bfseries \abstractname\vspace{-.5em}\vspace{\z@}}%
154 \end{center}\quotation\noindent}%
155 {\endquotation}%
156 \fi%

```

7.3.12 moreverb 環境の設定

\FVerb \ifmoreverb にしたがって設定される . moreverb.sty を利用するためのオプション
\FVerbb である .

```

\FVerbb 157 \ifmoreverb%
158 \newlength\FVleng%
159 \def\FVerbb{%
160 \par%
161 \def\verbatim@processline{%
162 {\setbox0=\hbox{\the\verbatim@line}%
163 \hsize=\wd0 \the\verbatim@line\par}}%
164 \@minipagetrue%%DPC%%
165 \@tempwattrue%%DPC%%
166 \setbox0=\vbox\bgroup \verbatim%
167 }%
168 \def\endFVerbb{%
169 \endverbatim%
170 \unskip\setbox0=\lastbox %%DPC%%
171 \egroup%
172 \framebox[\FVleng][l]{\box0}%
173 \mbox{}\par\mbox{}%
174 }%
175 \newenvironment{FVerb}[1]%
176 {\setlength{\FVleng}{#1}\FVerbb}\endFVerbb}%
177 \fi%

```

7.4 定理環境の設定

7.4.1 定理環境の設定

Th
Pro 定理環境の諸設定である . 各定理環境の出力文字を言語により英単語日本語に設定
Lem する . 番号付けを先頭からの一連番号に設定している . 定理環境等を利用する場合
Cor に使うオプションである . 定理, 命題, 補題, 系, 定義, 仮定, 記法, 例, 注意, 問題, アル
Def ゴリズム環境をさだめる . この環境は, L^AT_EX2e の theorem 環境を利用して作成
Hyp されている . 環境は以下の種類が定義されている . このオプションを有効にするた
Exp
Rem
Alg
Cnj

めには,

`\usepackage[theorem]{jssac}`

とすることがある .

環境	環境名	出力される名称	英語の場合
定理	Th	定理	Theorem
命題	Pro	命題	Proposition
補題	Lem	補題	Lemma
系	Cor	系	Corllary
定義	Def	定義	Definition
仮定	Hyp	仮定	Hypothesis
記法	Nte	記法	Notation
例	Exp	例	Example
注意	Rem	注意	Remark
問題	Prob	問題	Problem
アルゴリズム	Alg	アルゴリズム	Algorithm
予想	Cnj	予想	Conjecture
証明	Proof	証明	Proof

定理環境におけるフォントを `\rmfamily` とする .

```

178 \iftheorem%
179   \ifLang%
180     \theoremstyle{break} \newtheorem{Th}{Theorem}%
181     \theoremstyle{break} \newtheorem{Pro}[Th]{Proposition}%
182     \theoremstyle{break} \newtheorem{Lem}[Th]{Lemma}%
183     \theoremstyle{break} \newtheorem{Cor}[Th]{Corollary}%
184     \theoremstyle{break} \newtheorem{Def}[Th]{Definition}%
185     \theoremstyle{break} \newtheorem{Hyp}[Th]{Hypothesis}%
186     \theoremstyle{break} \newtheorem{Nte}[Th]{Notation}%
187     \theoremstyle{break} \newtheorem{Exp}[Th]{Example}%
188     \theoremstyle{break} \newtheorem{Rem}[Th]{Remark}%
189     \theoremstyle{break} \newtheorem{Prob}[Th]{Problem}%
190     \theoremstyle{break} \newtheorem{Alg}[Th]{Algorithm}%
191     \theoremstyle{break} \newtheorem{Cnj}[Th]{Conjecture}%
192   \else%
193     \theorembodyfont{\normalfont\rmfamily}%
194     \theoremstyle{break} \newtheorem{Th}{定理}%
195     \theoremstyle{break} \newtheorem{Pro}[Th]{命題}%
196     \theoremstyle{break} \newtheorem{Lem}[Th]{補題}%
197     \theoremstyle{break} \newtheorem{Cor}[Th]{系}%
198     \theoremstyle{break} \newtheorem{Def}[Th]{定義}%
199     \theoremstyle{break} \newtheorem{Hyp}[Th]{仮定}%
200     \theoremstyle{break} \newtheorem{Nte}[Th]{記法}%
201     \theoremstyle{break} \newtheorem{Exp}[Th]{例}%

```

```

202 \theoremstyle{break} \newtheorem{Rem}[Th]{注意}%
203 \theoremstyle{break} \newtheorem{Prob}[Th]{問題}%
204 \theoremstyle{break} \newtheorem{Alg}[Th]{アルゴリズム}%
205 \theoremstyle{break} \newtheorem{Cnj}[Th]{予想}%
206 \fi%
207 \fi%

```

7.4.2 証明環境の設定

`\proofname` 証明環境で利用される文言である。欧文, 日本語により表記を変えている。

```

208 \iftheorem%
209 \ifLang%
210 \newcommand{\proofname}{Proof}%
211 \else%
212 \newcommand{\proofname}{証明}%
213 \fi%
214 \fi%

```

`Proof` 証明環境は, 日本語環境では『証明』英語環境では『Proof』と定義されている。
`\proofname` により設定されている。

```

215 \iftheorem
216 \long\def\Proof{%
217 \trivlist\itemindent0pt%
218 \item[\hskip \labelsep{\normalfont\normalsize\bfseries\proofname}]{%
219 \hskip.5em}%
220 \def\endProof{\hfill \qed \endtrivlist}%
221 \fi%

```

7.5 キーワードの変更

$\text{\LaTeX}2\text{e}$ が内部に持っている定型文を変更する。

7.5.1 定型文字列の設定

さまざまな定型文字列の設定である。原則として均等割り付けをしている。`\contentsname`,
`\listfigurename`, `\listtablename`, `\indexname`, `\figurename`, `\tablename`,
`\appendixname`, `\the@ck`, `\refname` の文字列を変更している。文字列は日本語
環境が英語環境 (`\ifLang`) により切り替えられる。

```

\contentsname 222 \ifLang%
\listfigurename 223 \gdef\the@ck{\kintou{4\Cwd}{Acknowledgements}}%
\listtablename 224 \def\refname{References}%
\indexname 225 \def\figurename{Fig.}%
\figurename 226 \def\listfigurename{List of Figures}%
\tablename 227 \def\tablename{Table}%
228 \def\listtablename{List of Tables}%
\appendixname 229 \def\abstractname{Abstract}%
\the@ck
\refname

```



```

230 \else%
231   \def\contentsname{\hfil{\kintou{4\Cwd}{目次}}\hfil}%
232   \def\listfigurename{\hfil{\kintou{5\Cwd}{図目次}}\hfil}%
233   \def\listtablename{\hfil{\kintou{5\Cwd}{表目次}}\hfil}%
234   \def\indexname{\hfil{\kintou{4\Cwd}{索引}}\hfil}%
235   \def\figurename{図}%
236   \def\tablename{表}%
237   \def\appendixname{\hfil{\kintou{3\Cwd}{付録}}\hfil}%
238   \gdef\the@ck{\kintou{4\Cwd}{謝辞}}%
239   \def\refname{\hfil{\kintou{7\Cwd}{参考文献}}\hfil}%
240   \def\abstractname{\hfil{\kintou{4\Cwd}{概要}}\hfil}%
241 \fi%

```

8 編集に関わる機能

8.1 jssac.sty に関わる外部ファイル

jssac.sty, page.sty は外部のファイルの存在でその動作を変えるようになっている。

- headline.tex
- vol.tex
- Page.tex
- Next.tex
- WebTombow

8.2 headline.tex に記述ためのマクロ

headline.tex は、原稿種別、タイトル、著者名、所属先、メール、旧姓、アルファベット表記の氏名、連絡先住所、連絡先電話などを記述するための編集者が作るファイルである。編集者は、提出された \LaTeX ファイルからデータを抜きだし headline.tex を作成する。その後元ファイルの当該データはコメントアウトする必要がある。コピーするデータは、次のものである。`\art`, `\title`, `\author`, `\OddStart`, `\NoPage`, `\received`, `\revised`, `\accepted` が基本である。例外として vol.tex に記録するマクロ記述を入れても有効ではある。headline.tex の目的は、書誌関連データを記述することにより目次作成や索引作成などの作業が容易になるように工夫されている。

8.2.1 原稿の奇数起こしの宣言マクロ

`\OddStart` ページを奇数起こしにするためのマクロをである。headline.tex の中に `\OddStart`

が記載されている場合、当該原稿は奇数起こしの原稿であることを示している．関数が定義されていれば奇数起こしとallmake.shに認識されるため内容は\relaxとされている．論文、レター、記録などに利用する．その他抜き刷りが必要な原稿にはこのマクロを宣言する必要がある．奇数起こしの if フラグを設定する．

```
242 \def\OddStart{\Oddtrue}%
```

8.2.2 目次不掲載の宣言

\NoPage 通常はheadline.texに記述する．このコマンドはjssac.styでは意味を持たないため\relaxと定義されている．しかし、page.styでは重要な次のような意味を持つ．全体の目次にそのディレクトリにある文章を記載しない設定をするマクロである．通常は編集時にheadline.texに\NoPageと記載する．WebTombowが選言されている（1つ上のディレクトリにこの名称のファイルが存在すること）の場合はこの選言は無効となり\href対象になる．

```
243 \def\NoPage{\relax}%
```

8.2.3 原稿受け取り年月日の設定

\received 原稿を編集側がいつ受け取ったかを記録するマクロ論文、レター、記録などに利用
\@received する．

```
244 \def\received#1{\gdef\@received{#1}}%
```

8.2.4 最終投稿原稿の受け取り年月日の設定

\revised 最終投稿原稿を編集側がいつ受け取ったかを記録するマクロ論文、レター、記録などに利用する．
\@revised

```
245 \def\revised#1{\gdef\@revised{#1}}%
```

8.2.5 採録確定年月日の設定

\accepted 編集委員会が採録確定した日付を記録するマクロ論文、レター、記録などに利用する．
\@accepted

```
246 \def\accepted#1{\gdef\@accepted{#1}}%
```

8.2.6 原稿種別の設定

\art 原稿種別を記述するためのマクロ．目次と本文で異なる記述をするためオプション
\@art 引数を用意してある．オプション引数が存在した場合目次において表示をオプション
\@@art 引数の値を利用する．jssac.styにおいてはオプション引数は無視する．

```
247 \def\art{\ifnextchar[{\@art}{\@art[\empty]}}%
```

```
248 \def\@art[#1]#2{\gdef\@art{#2}}%
```

8.2.7 タイトルの設定

`\title` 原稿のタイトルを記述するマクロである．オプション引数は本文と目次において異なる記述をする場合利用される．`jssac.sty` においてはオプションは無視される．

```
\@@title 249 \def\title{\@ifnextchar[{\@@title}{\@@title[\empty]}}%
250 \def\@@title[#1]#2{\gdef\@title{#2}}%
```

8.2.8 著者名の設定

`\author` 著者名を記述するマクロである．オプション引数は本文と目次において異なる表示をする場合利用する．オプション引数は目次で利用する．`jssac.sty` においてはオプション引数は無視する．

```
251 \def\author{\@ifnextchar[{\@@author}{\@@author[\empty]}}%
252 \def\@@author[#1]#2{\gdef\@author{#2}}%
```

8.2.9 所属の設定

`\affil` `\author` のなかで所属を記述するためのマクロ

```
253 \def\affil#1{\small #1}%
```

8.2.10 メールアドレスの設定

`\mail` `\author` のなかでメールアドレスを記述するマクロ

```
254 \def\mail#1{\small \texttt{#1}}%
```

8.2.11 旧姓の設定

`\former` `\author` のなかで旧姓を表記する場合 () で括って出力するマクロ

```
255 \def\former#1{\small (#1)}%
```

8.2.12 所属名の設定

`\ename` 所属名を独自に書く場合に利用するダミーマクロ

```
256 \def\ename#1{#1}%
```

8.3 vol.tex に記述するマクロ

会誌全体の情報を記録するファイルである．通常次のマクロが記述される．`\vol`, `\num`, `\year`, `\month`, `\office`, `\Chief`, `\Jname`, `\editorANN` は必須である．`\day` は任意である．

8.3.1 年の独自保存

`\thisyear` 編集者が`vol.tex`に会誌の発行年を記述するために利用する．そのため本来の`\year`を`\thisyear`に保存している． \LaTeX 本来の`\year`を保存する．

```
257 \let\thisyear\year%
```

8.3.2 月の独自保存

`\thismonth` 編集者が`vol.tex`に会誌の発行月を記述するために利用する．そのため本来の`\month`を`\thismonth`に保存している． \LaTeX 本来の`\month`を保存する．

```
258 \let\thismonth\month%
```

8.3.3 日の独自保存

`\thisday` 編集者が`vol.tex`に会誌の発行日を記述するために利用する．そのため本来の`\day`を`\thisday`に保存している． \LaTeX 本来の`\day`を保存する．

```
259 \let\thisday\day%
```

8.3.4 会誌名称の設定

`\Jname` 会誌の名称を記述するマクロである．通常は編集者が`vol.tex`に記述する．通常は
`\@Jname` 編集者が`vol.tex`に固定データとして記録しておく．

```
260 \def\Jname#1{\gdef\@Jname{#1}}%
```

8.3.5 発行年の設定

`\year` 会誌の発行年を記録するマクロである． \LaTeX の`\year`とは異なる動作をする．通常は編集者が`vol.tex`に固定データとして記録しておく．発行年を記述するためのマクロ．

```
261 \def\year#1{\gdef\@year{#1}}%
```

8.3.6 発行月の設定

`\month` 会誌の発行月を記録するマクロである． \LaTeX の`\month`とは異なる通常は編集者が`vol.tex`に固定データとして記録しておく．発行月を記述するためのマクロ．

```
262 \def\month#1{\gdef\@month{#1}}%
```

8.3.7 発行日の設定

`\day` 会誌の発行日を記録するマクロである． \LaTeX の`\day`とは異なる通常は編集者が
`\@day` `vol.tex`に固定データとして記録しておく．現在の発行形式では利用していない

(\empty に定義されているが, vol.tex など定義すれば利用できる．発行日を記述するためのマクロ．

```
263 \def\day#1{\gdef\@day{#1}}%
```

8.3.8 Copyright 行の年の設定

\@CopyrightYear 原稿の先頭ページの Copyright 行の年を設定するマクロである \CopyrighYear に
\CopyrightYear より \@CopyrightYear を設定する．

```
\fyear 264 \def\CopyrightYear#1{\gdef\@CopyrightYear{#1}}%  
265 \CopyrightYear{1992}%  
266 \let\fyear\CopyrightYear%
```

8.3.9 掲載巻設定

\vol 原稿がどの巻に入るか記録するためのマクロ
\@vol 267 \def\vol#1{\gdef\@vol{#1}}%

8.3.10 掲載号設定

\num 原稿がどの号に入るか記録するためのマクロ
\@num 268 \def\num#1{\gdef\@num{#1}}%

8.3.11 学会住所

\office 奥付で利用するマクロである．デフォルト値は学会事務所の住所を記述する．
page.sty で利用するため jssac.sty では内容は無視される．
269 \def\office#1#2#3#4#5{\relax}%

8.3.12 編集委員長

\Chief 編集者が vol.tex に編集委員長名を定義するために利用するマクロである．編集委員長を記述するマクロ \Chief{氏名} と vol.tex に記載する．page.sty で利用するため jssac.sty では内容は無視される．
270 \def\Chief#1{\empty}%

8.3.13 編集局

\Bureau 編集局を記述するマクロ \Bureau{氏名} と vol.tex に記載する．page.sty で利用するため jssac.sty では内容は無視される．
271 \def\Bureau#1{\empty}%

8.3.14 印刷会社

`\printer` 号の印刷会社を記述するマクロ`\printer{印刷所名}`と`vol.tex`に記載する`.page.sty`で利用するため`jssac.sty`では内容は無視される．
272 `\def\printer#1{\empty}%`

8.3.15 販売者

`\seller` 号の販売者を記述するマクロ`\seller{販売者}`と`vol.tex`に記載する`.page.sty`で利用するため`jssac.sty`では内容は無視される．
273 `\def\seller#1{\empty}%`

8.3.16 編集奥付けアナウンス

`\editorANN` 奥付に編集コメントを記述するマクロ`\editorANN{コメント}`と`vol.tex`に記載する`.page.sty`で利用するため`jssac.sty`では内容は無視される．
274 `\def\editorANN#1{\empty}%`

8.4 Page.tex

原稿の開始ページと最終ページが記載される必要がある．記述内容は`\StartPage`, `\EndPage`, `\FileName`である．`jssac.sty`は当該ディレクトリに存在すれば`\begin{document}`で読み込み、ページ番号を`\StartPage`の値として使う．存在しなければ、1ページ目として製版する．

8.4.1 原稿のページの記述

`\StartPage` 原稿の始まりページを`Page.tex`に記録するマクロ、`jssac.sty`により自動作成、自動読み込みされる．
275 `\gdef\StartPage#1{\setcounter{page}{#1}\SP#1}%`

8.4.2 ファイル名記録

`\@FName` 原稿が最終的に出力されたファイル名を`Page.tex`に記録するマクロ、`jssac.sty`により自動作成、自動読み込みされる．
276 `\def\FileName#1{\gdef\@FName{#1}}%`

8.4.3 原稿の最終ページ設定

`\EndPage` 原稿の最終ページを`Page.tex`に記録するマクロ、`jssac.sty`により自動作成、自動読み込みされる．
277 `\gdef\EndPage#1{\EP#1}%`

ページの状況は`\end{document}`により`Page.tex`の中に書き出す．始まりページは`\StartPage` 最終ページは `\EndPage` に記録される．また処理したファイル名称も`\FileName` に記録される．

8.5 Next.tex

`Next.tex` は`\end{document}`により作成され次の原稿の開始ページを記録するものである．このデータは外部のプログラムにより \LaTeX コマンド実行前に直前ディレクトリの`Next.tex` を当該ディレクトリの`Page.tex` にコピーされ原稿間のページ受け渡しをしている．

9 Page dimensions 設定

組版で使用する紙の大きさとテキストの印字サイズ, マージンの大きさを設定する．関連する if は `\ifHREF`, `\Editor`, `\Sty` である．

9.1 用紙, 印字面サイズ

`\paperheight` 紙の大きさは A4 とする．印字する長さの設定である．
`\paperwidth` 278 `\paperheight=257mm\paperwidth=182mm%A4 paper size`
 279 `\textheight=205mm\textwidth=138mm%`

9.2 インデント等の設定

`\parindent` 段落初めの下げ量 `\parindent`, list 環境の下げ量 `\leftmargini`, `\leftmarginii`,
`\leftmargini` `\leftmarginiii`, `\leftmarginiv`, `\leftmarginv` 行間の長さ `\baselineskip` の
`\leftmarginii` 設定である．英語モードと日本語モードでは長さは異なる．
`\leftmarginiii` 280 `\ifLang% English mode%`
`\leftmarginiv` 281 `\typeout{English Mode}%`
`\leftmarginv` 282 `\global\parindent=1.5em \global\leftmargini=1.5em%`
`\baselineskip` 283 `\global\leftmarginii=1.25em \global\leftmarginiii=1.0em%`
 284 `\global\leftmarginiv=1.0em \global\leftmarginv=1.0em%`
 285 `\global\baselineskip=12pt%`
 286 `\else%`
 287 `\global\parindent=\Cwd%`
 288 `\global\leftmargini=\Cwd%`
 289 `\global\leftmarginii=\Cwd%`
 290 `\global\leftmarginiii=\Cwd%`
 291 `\global\leftmarginiv=\Cwd%`
 292 `\global\leftmarginv=\Cwd%`
 293 `\global\baselineskip=15.65pt%`
 294 `\fi%`

10 フォントの定義

jssac.sty で利用される種々のフォントを定義するセクションである。

10.1 jis Font 使用

組版において jis.tfm を使用するか否かを記述している。L^AT_EX のオプションで設定される『数式処理』の印刷稿は, jis Font を設定した状態で出力される。必要な fd ファイルは, platex jssac.ins により抽出される。JisFontture である場合

```
\mcdefault に \mcdefault, \gtdefault を再設定する。
\gtdefault 295 \ifJisFont%
296   \renewcommand{\mcdefault}{jis}%
297   \renewcommand{\gtdefault}{jisg}%
298   \fontfamily{\mcdefault}\selectfont%
299 \fi%
```

10.2 \section 等の設定

表示フォントは \bfseries とする, \section は, フォントサイズを英文では \Large とし日本語では \large とする。また英文ではインデントは抑制される。

```
\section
300 \ifLang%
301   \def\section{\@startsection {section}{1}{\z@}%
302     {-3.5ex \@plus -1ex \@minus -.2ex}%
303     {2.3ex \@plus .2ex}%
304     {\normalfont\Large\bfseries}}%
305 \else%
306   \def\section{\@startsection{section}{1}%
307     {\z@}{\Cht}{1sp}{\large\bfseries}}%
308 \fi%
```

10.3 \subsection 等の設定

\subsection フォントサイズが英文では \large, 日本語では \normalsize である。

```
309 \ifLang%
310   \def\subsection{\@startsection{subsection}{2}{\z@}%
311     {-3.25ex \@plus -1ex \@minus -.2ex}%
312     {1.5ex \@plus .2ex}%
313     {\normalfont\large\bfseries}}%
314 \else%
315   \def\subsection{\@startsection{subsection}{2}%
316     {\z@}{\Cht}{1sp}{\normalsize\bfseries}}%
317 \fi%
```


10.4 \subsubsection 等の設定

\subsubsection フォントサイズが \normalsize である .

```
318 \ifLang%
319   \def\subsubsection{\@startsection{subsubsection}{3}{\z@}%
320     {-3.25ex \@plus -1ex \@minus -.2ex}%
321     {1.5ex \@plus .2ex}%
322     {\normalfont\normalsize\bfseries}}%
323 \else%
324   \def\subsubsection{\@startsection{subsubsection}{3}%
325     {\z@}{\Cht}{1sp}{\normalsize\bfseries}}%
326 \fi%
```

10.5 \paragraph 等の設定

\paragraph フォントサイズが \normalsize である .

```
327 \ifLang%
328   \def\paragraph{\@startsection{paragraph}{4}{\z@}%
329     {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%
330     {-1em}%
331     {\normalfont\normalsize\bfseries}}%
332 \else%
333   \def\paragraph{\@startsection{paragraph}{4}%
334     {\z@}{\Cht}{-\Cht}{\normalsize\bfseries}}%
335 \fi%
```

10.6 \subparagraph 等の設定

\subparagraph フォントサイズが \normalsize である .

```
336 \ifLang%
337   \def\subparagraph{\@startsection{subparagraph}{5}{\parindent}%
338     {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%
339     {-1em}%
340     {\normalfont\normalsize\bfseries}}%
341 \else%
342   \def\subparagraph{\@startsection{subparagraph}{5}%
343     {\z@}{\Cht}{-\Cht}{\normalsize\bfseries}}%
344 \fi%
```

11 デフォルトの長さの設定

\parindent ブロックのインデントの長さ \parindent を漢字 1 文字長にし, ラインスキップ
\leftmarginii \baselineskip の長さを 15.65pt に設定する . また英文モードでは \parindent を
\leftmarginiv 1.5em にし, \baselineskip は 12pt である .
\leftmarginip 345 \ifLang%
346 \global\parindent=1.5em \global\leftmargini=1.5em%

```

347 \global\leftmarginii=1.25em \global\leftmarginiii=1.0em%
348 \global\leftmarginiv=1.0em \global\leftmarginv=1.0em%
349 \global\baselineskip=12pt%
350 \else%
351 \setbox0\hbox{\char\eut"A1A1}%
352 \global\baselineskip=15.65pt%
353 \setlength\Cht{\ht0}%
354 \setlength\Cwd{\wd0}%
355 \global\parindent\Cwd%
356 \setlength\leftmargini {3\Cwd}%
357 \setlength\leftmarginii {2\Cwd}%
358 \setlength\leftmarginiii {2\Cwd}%
359 \setlength\leftmarginiv {2\Cwd}%
360 \setlength\leftmarginv {\Cwd}%
361 \setlength\leftmarginvi {\Cwd}%
362 \setlength\labelsep {\Cwd}%
363 \labelwidth\leftmargini \advance\labelwidth-\labelsep%
364 \@beginparpenalty -\@lowpenalty%
365 \@endparpenalty -\@lowpenalty%
366 \@itempenalty -\@lowpenalty%
367 \fi%

```

12 list 環境のスペース設定

\itemize, \enumerate, \discription 環境における縦方向のスペースの設定である。この設定には, \@listI, \@listi, \@listii などの関数を再設定する必要がある。この内部関数は \list の引数の内部で実行される。

```

368 \def\@listi{%
369 \leftmargin\leftmargini%
370 \labelwidth\leftmargini \advance\labelwidth-\labelsep%
371 \parsep\z@ \itemsep\z@%
372 \topsep=\Cht plus 2pt minus 2pt \relax}%

```

\@listI \@listi の変更結果を \@listI に代入する。また状況に反映するために \@listi を実行する。

```

373 \let\@listI\@listi \@listi%

```

\@listii

```

374 \def\@listii{%
375 \leftmargin\leftmarginii%
376 \labelwidth\leftmarginii \advance\labelwidth-\labelsep%
377 \parsep\z@ \topsep\z@ \itemsep\z@}%

```

\@listiii

```

378 \def\@listiii{%
379 \leftmargin\leftmarginiii%
380 \labelwidth\leftmarginiii \advance\labelwidth-\labelsep%
381 \parsep\z@ \topsep\z@ \itemsep\z@}%

```

```

\@listiv
382 \def\@listiv{%
383   \leftmargin\leftmarginiv%
384   \labelwidth\leftmarginiv \advance\labelwidth-\labelsep%
385   \parsep\z@ \topsep\z@ \itemsep\z@}%

\@listv
386 \def\@listv{%
387   \leftmargin\leftmarginv%
388   \labelwidth\leftmarginv \advance\labelwidth-\labelsep%
389   \parsep\z@ \topsep\z@ \itemsep\z@}%

\@listvi
390 \def\@listvi{%
391   \leftmargin\leftmarginvi%
392   \labelwidth\leftmarginvi \advance\labelwidth-\labelsep%
393   \parsep\z@ \topsep\z@ \itemsep\z@}%

```

13 \pagestyle を規定するマクロ群

`\pagestyle{jssac}`, `\pagestyle{jssach}` の定義をするマクロである．実際に動作を規定するマクロ名は `\ps@jssac` と `\ps@jssach` である．`\ps@jssac` はタイトルページ以外の `pagestyle` である．`\ps@jssach` はタイトルページの `pagestyle` である．このマクロ群を設定によって定義を変更し動作を切替える．切り替えの方針は、Editor モードと Web モードの組み合わせである．Editor モードは処理する \LaTeX ファイルが収められているディレクトリの 1 つ上に `vol.tex` ファイルが存在した場合 Editor モードである．Web モードは同様に `WebTombow` ファイルが存在した場合 Web モードである．タイトルページの整版は、

非 Web モード `\HREFfalse` である．整版は `footnote` が空欄である．

Web モード `\HREFtrue` である．整版は `footnote` に Copyright 記述がある．

タイトル以外の整版は、

非 Editor モード `\Editorfalse` である．トンボが出力されない．

Editor モード `\Editortrue` である．トンボが出力される．

13.1 タイトルページスタイル

`\ps@jssach` タイトルページ用のページスタイルである．スタイルは、`\ifHREF`, `\ifEditor`, `\Sty` により動作を変える．

```

394 \def\ps@jssach{%

```

```

395 \let\@evenhead\@empty\let\@oddhead\@evenhead%
396 \ifEditor%
397   \ifHREF%
398     % Copyright あり, HREF 公開用に使う
399     \def\@oddfoot{\hfil\copyright\space\@CopyrightYear\space%
400       Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation}%
401     \let\@evenfoot\@oddfoot
402   \else%
403     % Copyright なし, 印刷用に使う
404     \def\@oddfoot{\hfil\thepage\hfil}%
405     \let\@evenfoot\@oddfoot%
406   \fi
407 \else%
408   % Copyright あり, 何もない場合のデフォルトである .
409   \def\@oddfoot{\hfil\copyright\space\@CopyrightYear\space%
410     Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation}%
411   \let\@evenfoot\@oddfoot%
412 \fi%
413 }%

```

13.2 本文ページスタイル

`\ps@jssac` 本文ページ用のページスタイルである . スタイルは, `\ifEditor` により動作を変える .

```

414 \def\ps@jssac{%
415   \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty%
416   \@ifundefined{@year}{\year{number\thisyear}}{}%
417   \ifLatexMode%
418     % 日本語は含まない
419     \def\@oddhead{\footnotesize\textit{\@Jname Vol. \@vol, No. %
420       \@num, \@year\hfil\thepage}}%
421     \let\@evenhead\@oddhead%
422   \else%
423     % 通常の印刷
424     \def\@evenhead{\footnotesize\textit{\thepage}\hfil%
425       数式処理 第 \textit{\@vol} 巻 第 \textit{\@num} 号 \textit{\@year}}%
426     \def\@oddhead{\footnotesize\textit{\@Jname Vol. \@vol, No. %
427       \@num, \@year\hfil\thepage}}%
428   \fi%
429 }%

```

14 タイトルページの定義

14.1 `\maketitle` の定義

`\maketitle` \LaTeX モードの場合のページヘッドスタイルを出力するマクロの定義である . \LaTeX

モードの場合のタイトルページを出力するマクロの定義である．しかし、実際の出力は `\@maketitle` でおこなわれる．

```

430 \def\maketitle{%
431   \ifundefined{@year}{\year{\number\thisyear}}{}%
432   \ifundefined{@vol}{\vol{XX}}{}%
433   \ifundefined{@num}{\num{XX}}{}%
434   \ifundefined{@FName}{\FileName{XX}}{}%
435   \ifundefined{@Jname}{\Jname{Bulletin of \JSSAC}}{}%
436   \ifundefined{@fyear}{\fyear{@year}}{}%
437   \par%
438   \begingroup%
439     \def\thefootnote{\fnsymbol{footnote}}%
440     \def\makefnmark{\hbox to 3pt{$^{\@thefnmark}$\hss}}%
441     \thispagestyle{jssach}%
442     \@maketitle%
443     \@thanks%
444   \endgroup%
445   \setcounter{footnote}{0}%
446   \let\maketitle=\relax%
447   \let\@maketitle=\relax%
448   \let\thanks=\relax}%

```

14.2 \@maketitle の定義

`\@maketitle` タイトルページを出力する実際のマクロである．通常は、`\maketitle` から準備の設定の後に呼び出される．

```

449 \def\@maketitle{%
450   \ifundefined{@year}{\year{\number\thisyear}}{}%
451   \let\mail\thanks%
452   \null%
453   \ifLang%
454     %英文モードである
455     \vbox{%
456       \hbox{\footnotesize\textgt{\JSSAC} \textit{\@Jname (\@year)}}%
457       }\vskip -0.5ex%
458       \hbox{\footnotesize \textit{Vol.\quad \@vol ,\quad No.\quad \@num ,}%
459         \quad pp.\quad \number\SP \quad -%
460         \quad \number\EP}} \vskip 1ex%
461       \ifx\@art\@empty\relax\else{\hbox{\fbox{\textgt{\@art}}}}\fi%
462     }\vskip 2em%
463     {\begin{center}%
464       {\LARGE \@title \par}\vskip 1.5em%
465       {\Large \lineskip .5em \begin{tabular}[t]{c}\@author\end{tabular}\par}%
466       \@ifundefined{@received}{}{%
467         \vskip 1.5em \footnotesize\textsc (Received \@received%
468         \@ifundefined{@revised}{}{%
469           \quad\footnotesize\textsc Revised \@revised}%
470         \@ifundefined{@accepted}{}{%

```

```

471         \quad\footnotesize\textsc Accepted \@accepted}%
472     \footnotesize)}}%
473 \end{center}}\par\vskip 1.5em%
474 \else%
475 % 日本語モード
476 \ifNoTitle%
477 \else%
478 \ifSty%
479 \vskip 2em%
480 \begin{center}%
481 \let\footnote\thanks%
482 \ifx\@title\@empty\else{\Large \@title \par}\vskip 1.5em\fi%
483 \ifx\@author\@empty\else%%
484 {\large\lineskip .5em%
485 \begin{tabular}[t]{c}\@author\end{tabular}}%
486 \par}\vskip 1em\fi%
487 {\large \@date}%
488 \end{center}%
489 \else%
490 \vbox{%
491 \hbox{\footnotesize \textgt{数式処理} \textit{\@Jname (\@year)}}}%
492 \ifLang\vskip -0.5ex\else\vskip -1.5ex\fi%
493 \hbox{\footnotesize \textit{Vol.\quad \@vol ,\quad No.\quad \@num ,%
494 \quad pp.\quad \number\SP \quad -\quad \number\EP}}}\vskip 1ex%
495 \ifx\@art\@empty\relax\else\hbox{\fbox{\textgt{\@art}}}\fi%
496 }\vskip 2em%
497 {\begin{center}%
498 {\LARGE \@title \par}\vskip 1.5em%
499 {\Large \lineskip .5em \begin{tabular}[t]{c}\@author\end{tabular}\par}%
500 \@ifundefined{@received}{-}{%
501 \vskip 1.5em \footnotesize\textsc (Received \@received}%
502 \@ifundefined{@revised}{-}{%
503 \quad\footnotesize\textsc Revised \@revised}%
504 \@ifundefined{@accepted}{-}{%
505 \quad\footnotesize\textsc Accepted \@accepted}%
506 \footnotesize)}}%
507 \end{center}}\par\vskip 1.5em%
508 \fi%
509 \fi%
510 \fi%
511 }%

```

15 トンボ

製版上必要なトンボに関連するマクロである。

15.1 トンボ設定

`\Tombow` トンボを作成するマクロである。このマクロにより製版上の見当となるトンボを出力する。このマクロは、通常は使われないが Editor モード `\Editortrue` の場合に `\begin{document}` の内部で自動的に実行される。

```
512 \def\Tombow{%
513   \tombowtrue%
514   \tombowdatetrue%
515   \@tombowwidth=.1\p@%
516   \@bannertoken{\jobname{}}.tex\space:\space%
517   \number\thisyear/\number\thismonth/\number\thisday\space%
518   \number\hour:\number\minute}%
519   \maketombowbox}%
```

15.2 トンボ抑制

`\NoTombow` トンボを抑制するマクロである。このマクロは `\begin{document}` の内部で `\Editorfalse` の場合に自動的に設定される。また印刷領域を設定している。

```
520 \def\NoTombow{\tombowfalse}%
```

16 初期化处理

16.1 `\AtBeginDocument` 内で実行されるマクロ

`\AtBeginDocument` このマクロは、`\begin{document}` の内部で自動実行されるマクロである。印刷領域の
`\textheight` 大きさを規定している。`\textheight`, `\textwidth`, `\topmargin`, `\oddsidemargin`,
`\textwidth` `\evensidemargin` を印刷形式にあわせて規定している。

```
\topmargin 521 \AtBeginDocument{%
\oddsidemargin 522   \IfFileExists{../vol.tex}{\input ../vol.tex}{}%
523   \IfFileExists{Page.tex}{\input Page.tex}{}%
\evensidemargin 524   \IfFileExists{headline.tex}{\input headline.tex}{}%
525   \if0dd\ifodd\thepage\else\stepcounter{page}\fi\fi%
526   \SP=\the\c@page%
527   \@twosidettrue%
528   \iftombow%
529     \ifHREF%
530       \hoffset=-24mm%
531       \voffset=-23mm%
532       \oddsidemargin=-5mm%
533       \topmargin=-18mm%
534       \evensidemargin=\oddsidemargin%
535     \else%
536       \hoffset=-8mm%
537       \voffset=-14mm%
538       \oddsidemargin=-5mm%
539       \topmargin=-12mm%
```

```

540     \evensidemargin=\oddsidemargin%
541     \fi%
542     \Tombow%
543 \else%
544     \ifHREF%
545         \topmargin=-16mm%
546         \oddsidemargin=-4mm%
547         \evensidemargin=\oddsidemargin%
548     \else%
549         \topmargin=-6mm%
550         \oddsidemargin=13mm%
551         \evensidemargin=\oddsidemargin%
552     \fi%
553 \fi%
554 \ifLang\global\baselineskip=12pt%
555 \else\global\baselineskip=15.65pt\fi%
556 \thispagestyle{jssach}%
557 \maketitle%
558 \pagestyle{jssac}%
559 }%

```

16.2 スタイルファイル内部で実行される初期化

事前に実行することにより初期化処理をおこなう.

16.2.1 日付の初期化

```
560 \date{ }%
```

17 終了処理

`\AtEndDocument` このマクロは, `\end{document}` の内部で自動的に実行されるマクロである .

1. 図版は `box` など未出力のデータを `\clerapage` で出力する .
2. `\clearpage` の結果ページ数が増えすぎてしまった場合 1 減少させる .
3. `aux` ファイルに最終ページ数を `ActEndPage` 名でラベルとして出力する .
4. `Page.tex` を開き `\StartPage{〈 開始ページ 〉}` として出力する .
5. `Page.tex` に `\EndPage{〈 最終ページ 〉}` として出力する .
6. Editor Mode の場合
 - (a) 次の原稿の最初のページ数を記録するため `Next.tex` ファイルを書きだす . 内容は, 最終ページ数+1 の値を `\StartPage{〈 開始ページ 〉}` として記録する .
 - (b) `Next.tex` ファイルを閉じる `\Sty` が `true` の場合なにもしない


```

561 \AtEndDocument{%
562   \ifSty%
563   \else%
564     \clearpage%
565     \if@filesw%
566       \@tempcnta\c@page%
567       \advance\@tempcnta\m@ne%
568     \fi%
569     \EP=\the\@tempcnta%
570     \newwrite\OutPut%
571     \immediate\openout\OutPut=Page.tex%
572     \immediate\write\OutPut{\string\StartPage{\number\SP}}%
573     \immediate\write\OutPut{\string\EndPage{\number\EP}}%
574     \immediate\write\OutPut{\string\FileName{\@FName}}%
575     \closeout\OutPut%
576     \advance\EP by 1%
577     \newwrite\Plist%
578     \immediate\openout\Plist=Next.tex%
579     \immediate\write\Plist{\string\StartPage{\number\EP}}%
580     \closeout\Plist%
581   \fi%
582 }%

583 \makeatother%
584 \</jssac>

```

18 page.sty

page.sty は「数式処理」用のスタイルファイルjssac.sty を用いた製版で目次, 奥付を作成するためのスタイルファイルである。『数式処理』編集時に利用されるスタイルファイルである。目次と奥付けを自動作成するために使われる。自動作成 shell スクリプトは別途配付されている。またpage.sty は, 上記スクリプトにより自動的に生成されかつ実行される。利用者は, 通常このスタイルファイルを直接利用することはない。

18.1 必要なスタイルファイル

page.sty を実行するにあたって必要なスタイルファイルは,

- amsmath.sty
- fontenc.sty
- txfonts.sty

である。また, pdf 公開のための hyperref に必要なスタイルファイルは,

- graphicx.sty
- hyperref.sty

である。page.sty の基本的な動作は, 1 つ上のディレクトリ存在するvol.tex と WebTombow ファイルにより動作を変化させる。vol.tex ファイルは, \@vol, \@num, \@year, \@month, \@zip, \@addressA, \@addressB, \@tel, \@fax, \@printer, \@seller を定義している。また 1 つ上のディレクトリにWebTombow という名称のファイルが存在すれば pdf 公開用の索引付き (hyperref) の pdf を作成する。

18.2 page.sty のヘッダー

```
585 <*page>
586 %%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%
587 \NeedsTeXFormat{LaTeX2e}[1995/12/01]
588 \ProvidesPackage{page}[2021/03/05 v10.1 page package]
589 %%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%
```

18.3 if フラッグの定義と初期値

page.sty の動作状態を変化させるため, 内部で必要とする if フラッグの定義とその初期値である。特にpage.sty においては編集モード \Editortrue の状態がデフォルトである。

if フラッグ名	if の初期値	デフォルト	意味
<code>\ifEditor</code>	<code>\Editortrue</code>	一般	編集モードの切替え
<code>\ifgraphics</code>	<code>\graphicsfalse</code>	不使用	graphicx の利用の有無
<code>\iftombow</code>	<code>\tombowtrue</code>	トンボなし	トンボの設定
<code>\iftombowdate</code>	<code>\tombowdateture</code>	日付なし	トンボに日付を入れる有無
<code>\ifHREF</code>	<code>\HREFfalse</code>	hyperref なし	hyperref 付きの pdf を作る

```

\ifEditor
\ifgraphics 590 \newif\ifEditor\Editortrue%
\iftombow 591 \newif\ifgraphics\graphicsfalse%
\iftombowdate 592 \newif\iftombow\tombowtrue%
\ifHREF 593 \newif\iftombowdate\tombowdateture%
594 \newif\ifHREF\HREFfalse%

```

18.3.1 オプションの設定

page.sty はオプションは設定されていない。しかし、設定されたとしても問題がないようにしてある。1 つ上のディレクトリにある vol.tex は必須である。また 1 つ上のディレクトリに WebTombow ファイルの存在により動作が変化する。

18.3.2 Editor オプション

`\Editortrue` 編集作業のためのオプションである。通常は 1 つ上位のディレクトリに vol.tex ファイルが存在した場合自動的に編集モードに設定される。オプション引数の設定が優先される。

```

595 \DeclareOption{Editor}{\Editortrue}%
596 \IfFileExists{../vol.tex}{\Editortrue}{}%

```

18.3.3 Tombow オプション

`\Tombowtrue` トンボを出力するオプションである。Editor モードで 1 つ上のディレクトリに WebTombow が存在しない場合設定される。

```

597 \DeclareOption{Tombow}{\tombowtrue}%
598 \IfFileExists{../vol.tex}{\tombowtrue}{}%
599 \IfFileExists{../WebTombow}{\tombowfalse}{}%

```

18.3.4 Tombowdate オプション

`\tombowdateture` トンボに処理日付を出力するオプションである。

```

600 \DeclareOption{Tombowdate}{\tombowdateture}%
601 \iftombow\tombowdateture\else\tombowdatefalse\fi%

```

18.3.5 HREF オプション

pdf を dvipdfmx で作成した場合に pdf にタグ付の index を埋め込むためのオプションである．このオプションは, hyperref.sty と graphicx.sty を必要とする．オプション引数に HREF が存在するか, ひとつ上のディレクトリに WebTombow が存在した場合 true となる．

```
602 \DeclareOption{HREF}{\HREFtrue}%
603 \IfFileExists{../WebTombow}{\HREFtrue}{}%
604 \ifHREF\graphicstrue\fi%
```

18.3.6 オプション宣言の終了

オプションの終了処理である．

```
605 \ProcessOptions\relax%
```

18.4 パッケージの読み込み

オプションで設定した if の真偽値にしたがい必要なパッケージを読み込む．

18.4.1 hyperref 付き pdf の作成の読み込み

\HREF が真の場合以下の処理をする．\AtBeginDvi を設定する．索引付き pdf ファイルの作成のため graphicx を読み込む．タグの文字コードを UCS2 にするために \AtBeginDvi{\<} を設定する．またこの場合トンボはつけないこととする．hyperref 付きでない場合は \href を \relax に設定する．

```
606 \ifHREF%
607   \RequirePackage[dvipdfmx]{graphicx}%
608   \AtBeginDvi{\special{pdf:tounicode EUC-UCS2}}%
609   \RequirePackage[dvipdfmx,CJKbookmarks=true]{hyperref}%
610   \tombowfalse%
611 \else%
612   \gdef\href#1{\relax}%
613 \fi%
```

18.5 種々のマクロの定義

「数式処理」で利用される種々の名称や住所などを定義するセクションである．

18.5.1 法人名, 名称等の定義

\ORG \ORG 組織名称, \ORGE 組織名称英語表記, \ 社団法人名称, \ 略社法人略社を定義
\ORGE する．

```
614 \def\ORG{日本数式処理学会}%
615 \def\ORGE{Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation}%
```

\ 社団 法人の正式名称を定義する．略称は、内閣府の指導による．

\ 略社 616 \expandafter\def\csname 社団 \endcsname{一般社団法人 \ORG}%

617 \expandafter\def\csname 略社 \endcsname{(一社)\ORG}%

18.5.2 \JSSAC,\Jssac,\CJSSAC,\CJssac のロゴ定義

\JSSAC \JSSAC,\Jssac,\CJSSAC,\CJssac の文字を定義する．

\Jssac 618 \def\JSSAC{\textit{JSS\hspace{-0.2ex}A\hspace{-0.3ex}C} }%

619 \def\Jssac{\textsc{Jssac}}%

\CJSSAC 620 \def\CJSSAC{\textit{CJSS\hspace{-0.2ex}A\hspace{-0.3ex}C} }%

\CJssac 621 \def\CJssac{\textsc{CJssac}}%

18.5.3 住所等

\@addressA 住所等のデフォルトを定義する (2013 年 2 月 1 日の値である) ．

\@addressB 住所は、\ADDRESSA、住所細分は \ADDRESSB に格納されている．英語表記はそれぞ

\@eaddressA れ \ADDRESSAE、\ADDRESSBE である．電話は \TEL、FAX は \FAX である．しかし現

\@eaddressB 在は両方とも \empty と定義している．印刷会社は \PRINTER に設定される．

\ADDRESSA 622 \def\ZIP{124--0011}%

\ADDRESSB 623 \def\ADDRESSA{葛飾区四つ木 1--26--2}%

624 \def\ADDRESSB{株式会社アルファオメガ 内}%

\ADDRESSAE 625 \def\ADDRESSAE{1--26--2, Yotsugi Katsushika-ku Tokyo, Japan}%

\ADDRESSBE 626 \def\ADDRESSBE{AlphaOmega Inc.}%

627 \def\TEL{\empty}%

\TEL 628 \def\FAX{\empty}%

\FAX 629 \def\PRINTER{株式会社 平河工業社}%

\PRINTER

18.6 数学記号の設定

\C \C, \R, \Q, \Z, \N などの文字を定義する．通常は必要ないはずであるがタイトルに

\R 使われた場合のため宣言する．\mathbb を利用する．

\Q 630 \newcommand{\C}{\mbox{\$\mathbb{C}\$}}%

631 \newcommand{\R}{\mbox{\$\mathbb{R}\$}}%

\Z 632 \newcommand{\Q}{\mbox{\$\mathbb{Q}\$}}%

633 \newcommand{\Z}{\mbox{\$\mathbb{Z}\$}}%

\N 634 \newcommand{\N}{\mbox{\$\mathbb{N}\$}}%

\SC \mathbb による数学記号 \small サイズの \SC, \SR, \SQ, \SZ, \SN の文字を定義す

\SR る．\mathbb を利用している．

\SQ 635 \newcommand{\SC}{\mbox{\small\$\mathbb{C}\$}}%

636 \newcommand{\SR}{\mbox{\small\$\mathbb{R}\$}}%

\SZ 637 \newcommand{\SQ}{\mbox{\small\$\mathbb{Q}\$}}%

\SN 638 \newcommand{\SZ}{\mbox{\small\$\mathbb{Z}\$}}%

639 \newcommand{\SN}{\mbox{\small\$\mathbb{N}\$}}%

```

\Bbb
\Bbbs 640 \font\msbm bbs=msbm10%
\qed 641 \font\msbm bb=msbm10 scaled \magstep1%
642 \def\Bbb#1{\mbox{\msbm bb\relax#1}}%
643 \def\Bbbs#1{\mbox{\msbm bbs\relax#1}}%
644 \newcommand{\qed}{\hbox{\rule[-2pt]{3pt}{6pt}}}%

```

18.7 フォントの設定

fontenc T1 フォント jis フォントの設定である．\selectfont は、フォントを切替えた場合
amsmath 必ず必要な処理である．

```

txfonts 645 \RequirePackage[T1]{fontenc}%
        646 \RequirePackage{amsmath}%
        jis 647 \RequirePackage{txfonts}%
        jisg 648 \renewcommand{\mcdefault}{jis}%
        649 \renewcommand{\gtdefault}{jisg}%
        650 \fontfamily{\mcdefault}\selectfont%

```

18.8 page の形状設定

page の形状を決める変数の設定である．物理的な紙の大きさ印刷する紙面の大きさ
さを設定してる．page.sty は、常にトンボを出力するモードになっている．また
\@bannertoken により処理している年月日等を併せて出力する．

```

651 \pagestyle{empty}%
652 \setcounter{@paper}{1}%
653 \paperheight=257mm%
654 \paperwidth=182mm%
655 \textheight=205mm%
656 \textwidth=138mm%
657 \topmargin=-12mm%
658 \oddsidemargin=-5mm%
659 \footnotesep=9pt%
660 \parindent=0pt%
661 \@tombowwidth=.1\p@%
662 \@bannertoken{\jobname\space:\space\number\year/\number\month/\number\day%
663 (\number\hour:\number\minute)}%
664 \maketombowbox%

```

18.9 vol.tex に記述ためのマクロ

18.9.1 会誌名称の設定

\Jname 会誌の名称を記述するマクロである．通常は編集者がvol.tex に記述する．通常は
\@Jname 編集者がvol.tex に固定データとして記録しておく．

```

665 \def\Jname#1{\gdef\@Jname{#1}}%

```

18.9.2 発行年

`\year` 会誌の発行年を記録するマクロである． \LaTeX の `\year` とは異なる動作をする．通常は編集者が `vol.tex` に固定データとして記録しておく．発行年を記述するためのマクロ．

```
666 \def\year#1{\def\@year{#1}}%
```

18.9.3 発行月

`\month` 会誌の発行月を記録するマクロである． \LaTeX の `\month` とは異なる通常は編集者が `vol.tex` に固定データとして記録しておく．発行月を記述するためのマクロ．

```
667 \def\month#1{\def\@month{#1}}%
```

18.9.4 発行日の設定

`\day` 会誌の発行日を記録するマクロである． \LaTeX の `\day` とは異なる通常は編集者が `vol.tex` に固定データとして記録しておく．現在の発行形式では利用していない (`\empty` に定義されているが, `vol.tex` など定義すれば利用できる．発行日を記述するためのマクロ．

```
668 \def\day#1{\gdef\@day{#1}}%
```

18.9.5 発行巻数

`\vol` 原稿がどの巻に入るか記録するためのマクロ

```
\@vol 669 \def\vol#1{\def\@vol{#1}}%
```

18.9.6 発行号数

`\num` 原稿がどの号に入るか記録するためのマクロ

```
\@num 670 \def\num#1{\def\@num{#1}}%
```

18.9.7 事務所の所在地

`\zip` 住所, 郵便番号を定義するマクロである．学会事務局の所在位置を定義するためのマクロである．`\office{< 〒番号 >}{< 住所 >}{< 住所 2 >}{< 電話番号 >}{< FAX 番号 >}` である．それぞれ `\@zip`, `\@addressA`, `\@addressB`, `\@tel`, `\@fax` を定義する．

```
\@addressA 671 \def\zip#1{\def\@zip{#1}}%
\addressB 672 \def\addressA#1{\def\@addressA{#1}}%
673 \def\addressB#1{\def\@addressB{#1}}%
\@addressB 674 \def\office#1#2#3#4#5{%
\office 675 \def\@zip{#1}%
676 \def\@addressA{#2}%
```

```

677 \def\@addressB{#3}%
678 \def\@tel{#4}%
679 \def\@fax{#5}}%

```

18.9.8 印刷業者

`\printer` 印刷・製本をする業者の社名を定義するマクロである。`\printer{〈業者名〉}`である。
`\@printer` 680 `\def\printer#1{\def\@printer{#1}}%`

18.9.9 販売業者

`\seller` 販売業者の社名を定義するマクロである。
`\@seller` 681 `\def\seller#1{\def\@seller{#1}}%`

18.10 奥付アナウンス

`\editorANN` `\editorANN` は、`\@editorANN` を定義するマクロである。奥付に掲載する『案内分』
`\@editorANN` を定義する。
682 `\def\editorANN#1{\def\@editorANN{#1}}%`

18.11 発行人を定めるマクロ

`\publisher` `\publisher` は、`\@publisher` を `\epublisher` は、`\@epublisher` をそれぞれ定義
`\@publisher` するマクロである。奥付に掲載する『発行人』を定義する。通常 `\publisher{\ORG}`
`\epublisher` とする。
`\@epublisher` 683 `\def\publisher#1{\def\@publisher{#1}}%`
684 `\def\epublisher#1{\def\@epublisher{#1}}%`

18.12 編集委員長を定めるマクロ

`\Chief` `\Chief` は、`\@Chief` を定義するマクロである。奥付に掲載する『編集委員長』を定
`\@Chief` 義する。通常 `vol.tex` で定義される。なければ空白 `\Chief{}` とする。
685 `\def\Chief#1{\def\@Chief{#1}}%`

18.13 編集局を定めるマクロ

`\Bureau` `\Bureau` は、`\@Bureau` を定義するマクロである。奥付に掲載する『編集局』を定義
`\@Bureau` する。通常 `vol.tex` で定義される。なければ空白 `\Bureau{}` とする。
686 `\def\Bureau#1{\def\@Bureau{#1}}%`

18.14 原稿分類

```
\art 原稿分類 \art, \@art, \@art の定義
\@art 687 \def\art{\ifnextchar[{\@art}{\@art[\@empty]}}%
\@art 688 \def\@art[#1]#2{\ifx#1\@empty{\gdef\art{#2}}\else{\gdef\art{#1}}\fi}%
```

18.15 タイトル

```
\title タイトル \title, \@title, \@title の定義
\@title 689 \def\title{\ifnextchar[{\@title}{\@title[\@empty]}}%
\@title 690 \def\@title[#1]#2{\ifx#1\@empty{\gdef\title{#2}}\else{\gdef\title{#1}}\fi}%
```

18.16 著者名

```
\author 著者名 \author, \@author \@author の定義
\@author 691 \def\author{\ifnextchar[{\@author}{\@author[\@empty]}}%
\@author 692 \def\@author[#1]#2{\ifx#1\@empty{\gdef\author{#2}}\else{\gdef\author{#1}}\fi}%
```

18.17 Page.tex 記載のマクロ

jssac.sty の中で出力される Page.tex に記述されるマクロの定義である。 \StartPage を \page とする。マクロとして定義する。 \EndPage を \empty とするマクロ。 引数は除去する。 \FileName を \FName とするマクロ。

```
\StartPage 693 \def\StartPage#1{\def\@page{#1}}%
\EndtPage 694 \def\EndPage#1{\empty}%
\@page 695 \def\FileName#1{\gdef\FName{#1}}%
\FName
\FName
```

18.18 \author 内の設定の変更

\author の引数で使われる \and, \affil, \mail, \thanks, \former, \newline, \footnote, \received, \revised, \OddStart, \sc を再定義するマクロ。基本的な再定義の方針は、 \empty である。

```
696 \let\newline=\par%
697 \def\{\}%
698 \edef\and{,}%
699 \def\affil#1{\empty}%
700 \def\mail#1{\empty}%
701 \def\former#1{\empty}%
702 \def\thanks#1{\empty}%
703 \def\footnote#1{\empty}%
704 \def\footnotemark[#1]{\empty}%
705 \def\ename#1{\empty}%
706 \def\received#1{\empty}%
707 \def\revised#1{\empty}%
708 \def\accepted#1{\empty}%
```

```

709 \def\OddStart{\empty}%
710 \def\ignore#1{\empty}%

```

18.19 目次掲載の条件設定

目次にheadline.tex の内容を掲載の判定条件が \ifPP である . \PPtrue の場合目次に掲載する, \PPfalse の場合掲載しないという意味である . \ifPP を掲載しない

```

\ifPP に変化させるマクロが \NoPage である .
\NoPage 711 \newif\ifPP%
712 \def\NoPage{\PPfalse}%

```

18.20 目次項目の長さ

```

\PageZ 長さはそれぞれ \textwidth の 0.1 0.6 0.7 0.8 0.9 1 倍とする .
\PageI 713 \newdimen\PageZ%
714 \newdimen\PageI%
\PageVI 715 \newdimen\PageVI%
\PageVII 716 \newdimen\PageVII%
\PageVIII 717 \newdimen\PageVIII%
718 \newdimen\PageIX%
\PageIX 719 \newdimen\PageX%
720 \PageZ=0.01\textwidth%
721 \PageI=0.1\textwidth%
722 \PageVI=0.6\textwidth%
723 \PageVII=0.7\textwidth%
724 \PageVIII=0.8\textwidth%
725 \PageIX=0.9\textwidth%
726 \PageX=\textwidth%

```

18.21 種別の構成

引数で受け渡された種別が直前の種別 \PreArt と同じ場合は, 何も出力しない . しかし, 異なる場合は, 引数であたえられた文字を出力し \PreArt に保存する . 種別

```

\Art 表示エリアは印刷行の 0.5 以下とする .
727 \def\Art#1{%
728   \ifx#1\empty\else%
729     \vspace{2mm}\newline%
730     \ifx\@art\PreArt\else%
731       \vspace{2mm}\newline\parbox{0.5\textwidth}{\<#1$>}\newline%
732       \xdef\PreArt{#1}%
733     \fi%
734   \fi%
735 }%

```

18.22 種別の保存

直前に処理した `\art` の内容を保持する、`\Art` 内部で必要に応じて再定義されるため、ここでの定義は初期値を定めるものである。

```
736 \def\PreArt{}
```

18.23 目次項目の出力

`\PageItem` `headline.tex` と `Page.tex` を実際に読み込む。`\PageItem{<ディレクトリ名>}`で `headline.tex` と `Page.tex` の置いてあるディレクトリを指定する。`headline.tex` にマクロ `\NoPage` があれば、`\ifPP` が偽となり出力は実行されない。しかし、`\HREFtrue` であれば全ての項目が出力される。この場合、pdf に変換した場合この pdf を参照する `\href` が自動的に付けられる。

```
737 \def\PageItem#1{%
738   \PPtrue%
739   \input ../#1/headline%
740   \input ../#1/Page%
741   \iftombow%
742     \ifPP%
743       \parbox{\PageX}{%
744         \Art{\@art}%
745         \ifx\@author\empty%
746           \parbox{\PageX}{%
747             \parbox{\PageIX}{\@title\hspace*\PageI\dotfill}%
748             \parbox{\PageI}{\hfill\@page}}%
749         \else%
750           \parbox{\PageX}{\parbox{\PageIX}{\@title}}\newline%
751           \parbox{\PageX}{%
752             \hspace*\PageI}%
753             \parbox{\PageVIII}{\@author\hspace*\PageI\dotfill}%
754             \parbox{\PageI}{\hfill\@page}}%
755         \fi}%
756     \fi%
757   \else%
758     \parbox{\PageX}{%
759       \Art{\@art}%
760       \ifx\@author\empty%
761         \parbox{\PageX}{%
762           \parbox{\PageIX}{\href{\@FName.pdf}{\@title\hfill}\dotfill}%
763           \parbox{\PageI}{\hfill\@page}}%
764         \else%
765           \parbox{\PageX}{\parbox{\PageIX}{%
766             \href{\@FName.pdf}{\@title\hfill}}}\newline%
767           \parbox{\PageX}{%
768             \hspace*\PageI}%
769             \parbox{\PageVIII}{\@author\hspace*\PageI\dotfill}%
770             \parbox{\PageI}{\hfill\@page}}%

```

```

771      \fi}%
772  \fi%
773  \newline%
774 }%

```

18.24 pagestyle の定義

18.25 \pd@jssaccc

\ps@jssaccc pdf 公開用の copyright を記載したタイトルページの定義である .

```

775 {ps@jssaccc}
776 \def\ps@jssaccc{%
777   \let\@oddhead\empty\let\@evenhead\empty%
778   \def\@oddfoot{\hfil\copyright\space\@year\space\ORGE}%
779   \let\@evenfoot\@oddfoot}%

```

18.26 \ps@jssacnc

\ps@jssacnc 印刷用のトンボを記載したタイトルページの定義である .

```

780 {ps@jssacnc}
781 \def\ps@jssacnc{%
782   \let\@oddhead\empty\let\@evenhead\empty%
783   \def\@oddfoot{\hfil\thepage\hfil}%
784   \let\@evenfoot\@oddfoot}%

```

18.27 目次・奥付の処理の初期動作

\AtBeginDocument \begin{document} の処理をした後に起動されるマクロの設定である . 1 つ上のディレクトリに WebTombow が存在するか否かでページスタイルを変更する . さらに, 1 つ上のディレクトリにある vol.tex を読み込む . 目次の Copyright 等の印刷をするまたページのタイトル行『目次』を印刷する . 目次の位置決めをしている .

```

785 \AtBeginDocument{%
786   \ifundefined{@year}{\year{}}{}%
787   \ifundefined{@month}{\month{}}{}%
788   \ifundefined{@day}{\day{}}{}%
789   \ifundefined{@vol}{\vol{}}{}%
790   \ifundefined{@num}{\num{}}{}%
791   \IfFileExists{../vol.tex}{\input{../vol.tex}}{}%
792   \ifHREF%
793     \hoffset=2mm\voffset=-5mm%
794   \else%
795     \hoffset=-8mm\voffset=-14mm%
796   \fi%
797   \thispagestyle{empty}%
798   \vfill%
799   {\bf\Large\hfil\makebox[15zw]{目 \hfil{}次}\hfil\mbox{}\vspace{10mm}}%
800 }%

```

18.28 奥付を出力するマクロ

`\AtEndDocument` `\end{document}` が起動される時に実行されるマクロである。 `EditorList.tex` を読み込む。 `EditorList.tex` は、1 つ上のディレクトリに格納されていると仮定している。最後に奥付を印刷する。奥付は、`oku.tex` に `\publisher`, `\address`, `\zip`, `\tel`, `\fax`, `\seller`, `\printer` が定義されていると仮定している。もし存在しないならば、デフォルト値 (2013 年 2 月現在の値) を使う。 ZZ

```
801 \AtEndDocument{%
802   \IfFileExists{../oku.tex}{\input ../oku.tex}{}%
803   \ifundefined{@Jname}{\def\@Jname{Bulletin of \JSSAC}}{}%
804   \ifundefined{@publisher}{\def\@publisher{\ORG}}{}%
805   \ifundefined{@zip}{\def\@zip{ZIP}}{}%
806   \ifundefined{@addressA}{\def\@addressA{ADDRESSA}}{}%
807   \ifundefined{@addressB}{\def\@addressB{ADDRESSB}}{}%
808   \ifundefined{@tel}{\def\@tel{TEL}}{}%
809   \ifundefined{@fax}{\def\@fax{FAX}}{}%
810   \ifundefined{@printer}{\def\@printer{PRINTER}}{}%
811   \ifundefined{@day}{\def\@day{}}{}%
812   \ifundefined{@pubdate}{\xdef\@pubdate{\ifx\@year\@empty\else\@year 年 %
813     \ifx\@month\@empty\else\@month 月 %
814     \ifx\@day\@empty\else \@day 日 \fi\fi\fi}}{}%
815   \ifundefined{@Chief}{\def\@Chief{}}{}%
816   \ifundefined{@Bureau}{\def\@Bureau{}}{}%
817   \ifundefined{@seller}{\def\@seller{}}{}%
818   \ifundefined{@editorANN}{\def\@editorANN{}}{}%
```

18.29 目的, 範囲の記述の読み込み

`AimsAndScope.tex` `AimsAndScope.tex` が存在すればそれをを読み込む。

```
819 \IfFileExists{../AimsAndScope.tex}{\input ../AimsAndScope.tex}{\pagebreak}%
```

18.30 編集委員名の取得と出力

`EditorList.tex` 1 つ上のディレクトリに格納されている `EditorList.tex` に委員会名もしくは職種名, 氏名, 所属がコンマ区切りで格納されている。これを順次読込最終ページに記述する。

```
820 \newif\ifInRead%
821 \newcount\NO%
822 \newpage%
823 \InReadtrue%
824 \newread\EDITOR%
825 \hfil\vbox{%
826   \openin\EDITOR=../EditorList.tex%
827   \loop%
828     \read\EDITOR to \DATA%
829     \ifeof\EDITOR\InReadfalse\else%
```

```

830      \NO=1%
831      \@for\TMP:=\DATA\do{%
832          \ifnum\NO=1\edef\Kata{\TMP}\fi%
833          \ifnum\NO=2\edef\Name{\TMP}\fi%
834          \ifnum\NO=3\edef\Emp{\TMP}\fi%
835          \advance\NO by 1}%
836      \hbox{%
837          \hbox to 3cm {\expandafter\Kata\hss}%
838          \hbox to 4cm {\expandafter\Name\hss}%
839          \hbox to 4cm {\expandafter\Emp\hss}}%
840      \fi%
841      \ifInRead%
842      \repeat\closein\EDITOR%

```

18.31 編集委員会からのメッセージ

`\@editorANN` 編集委員会からのメッセージを編集委員リストの下 1 行のスペースを開けて出力する。固定メッセージと奥付の間は `\vfill` を使用してスペースを適宜開ける。

```

843      \ifx\@editorANN\@empty{}\else{\hbox{}\hbox{\@editorANN}}\fi%
844  }%

```

18.32 奥付の出力

奥付の出力, 編集者リストと奥付の間は自動的に空行を入れる。1 つ上のディレクトリに `oku.tex` が存在する場合はその内容を読み込む。 `oku.tex` に記載される事が想定されている関数は `\publisher`, `\office` である。存在しない場合は, デフォルト値を利用する。日付, 巻数, 号数は, `vol.tex` の内容に従う。

関数名	デフォルト値
@publisher	Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation
@zip	124-0011
@addressA	1-26-2, Yotsugi Katsushika-ku Tokyo, Japan
@addressB	AlphaOmega Inc.
@tel	空白
@fax	空白
@printer	Hirakawa Kogyosha Co., Ltd
@seller	空白
@pubdate	\year から作成
@Chief	空白
@Bureau	空白
@editorANN	空白

```

845 \vfill\vbox{%
846 \hfil\hbox{\fbox{\vbox{%
847 \hbox{\parbox{90mm}{\hfil\large%
848 数式処理 (\textit{\@Jname}) 第 \@vol 巻 第 \@num 号}}%
849 \ifx\@pubdate\@empty{}\else{%
850 \hbox{\parbox{20mm}{発行日}\parbox{70mm}{\@pubdate}}\fi%
851 \hbox{\parbox{20mm}{発行人}\parbox{70mm}{\@publisher}}\fi%
852 \ifx\@Chief\@empty{}\else{%
853 \hbox{\parbox{20mm}{編集長}\parbox{70mm}{\@Chief}}\fi%
854 \ifx\@Bureau\@empty{}\else{%
855 \hbox{\parbox{20mm}{編集局}\parbox{70mm}{\@Bureau}}\fi%
856 \hbox{\parbox{20mm}{事務局}\parbox{70mm}{〒 \@zip \@addressA}}\fi%
857 \ifx\@addressB\@empty{}\else{%
858 \hbox{\parbox{20mm}{ }\parbox{70mm}{\@addressB}}\fi%
859 \ifx\@tel\@empty{}\else{%
860 \hbox{\parbox{20mm}{ }\parbox{70mm}{TEL \@tel FAX \@fax}}\fi%
861 \ifx\@seller\@empty{}\else{%
862 \hbox{\parbox{20mm}{販売元}\parbox{70mm}{\@seller}}\fi%
863 \hbox{\parbox{20mm}{印刷・製本}\parbox{70mm}{\@printer}}\fi%
864 }}}\hfil%
865 }%
866 }%

```

18.33 均等割り付け

\kintou 日本語の均等割り付けのためのマクロコード \kintou{〈長さ〉}{〈文字列〉}

```

867 \def\kintou#1#2{%
868 \hbox to #1{%

```

```
869 \@ifundefined{jintercharskip}{%  
870 \kanjiskip=0pt plus 1fill minus 1fill%  
871 \xkanjiskip=\kanjiskip #2}{%  
872 \jintercharskip=0pt plus 1fill minus 1fill%  
873 \jasciikanjiskip=\jintercharskip #2}}%
```

18.34 page.sty のファイル終わり

```
874 \makeatother%  
875 \</page>
```


19 jis font definition

jis フォントの定義である .

19.1 jis normal font def

明朝横組のための jis フォント定義である .

```
876 <*jy1jis>
877 \ProvidesFile{jy1jis.fd}
878 [1997/04/23 v1.3 JIS KANJI font defines]
879 \DeclareKanjiFamily{JY1}{jis}{}
880 \DeclareRelationFont{JY1}{jis}{m}{}{OT1}{cmr}{m}{}
881 \DeclareRelationFont{JY1}{jis}{bx}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
882 \DeclareFontShape{JY1}{jis}{m}{n}{<-> s * [0.961] jis}{}
883 \DeclareFontShape{JY1}{jis}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
884 </jy1jis>
```

19.2 jis gothic font def

ゴシック横組のための jis フォント定義である .

```
885 <*jy1jisg>
886 \ProvidesFile{jy1jisg.fd}
887 [1997/04/23 v1.3 JIS KANJI font defines]
888 \DeclareKanjiFamily{JY1}{jisg}{}
889 \DeclareRelationFont{JY1}{jisg}{m}{}{OT1}{cmr}{m}{}
890 \DeclareRelationFont{JY1}{jisg}{bx}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
891 \DeclareFontShape{JY1}{jisg}{m}{n}{<-> s * [0.961] jis}{}
892 \DeclareFontShape{JY1}{jisg}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
893 </jy1jisg>
```

19.3 jis tate normal font def

明朝縦組のための jis フォント定義である .

```
894 <*jt1jis>
895 \ProvidesFile{jt1jis.fd}
896 [1997/04/23 v1.3 JIS KANJI font defines]
897 \DeclareKanjiFamily{JT1}{jis}{}
898 \DeclareRelationFont{JT1}{jis}{m}{}{OT1}{cmr}{m}{}
899 \DeclareRelationFont{JT1}{jis}{bx}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
900 \DeclareFontShape{JT1}{jis}{m}{n}{<-> s * [0.961] tmin10}{}
901 \DeclareFontShape{JT1}{jis}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
902 </jt1jis>
```

19.4 jis tate gothic font def

ゴシック縦組のための jis フォント定義である .

```

903 <*jtljisg>
904 \ProvidesFile{jtljisg.fd}
905      [1997/04/23 v1.3 JIS KANJI font defines]
906 \DeclareKanjiFamily{JT1}{jisg}{}
907 \DeclareRelationFont{JT1}{jisg}{m}{}{OT1}{cmr}{m}{}
908 \DeclareRelationFont{JT1}{jisg}{bx}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
909 \DeclareFontShape{JT1}{jisg}{m}{n}{<-> s * [0.961] tmin10}{}
910 \DeclareFontShape{JT1}{jis}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
911 </jtljisg>

```

Contents

1	はじめに	1
2	jssac.sty の実行にあたって必要なスタイルファイル	1
3	jssac.sty ヘッダー	2
4	counter	3
5	if フラッグ	3
5.1	if の定義	3
5.2	環境設定オプション	4
5.2.1	Editor オプション	5
5.2.2	NoEditor オプション	5
5.2.3	English オプション	5
5.2.4	LatexMode オプション	5
5.2.5	nojis オプション	5
5.2.6	FVerb オプション	6
5.2.7	usegraph オプション	6
5.2.8	theorem オプション	6
5.2.9	AMS オプション	7
5.2.10	Tombow オプション	7
5.2.11	NoTombow オプション	7
5.2.12	Tombowdate オプション	7
5.2.13	HREF オプション	7
5.2.14	WebTombow ファイルの存在などによる設定	7
5.2.15	NoHREF オプション	8
5.2.16	NoTitle オプション	8
5.2.17	Color オプション	8
5.2.18	Sty オプション	8
5.2.19	NoSty オプション	8
5.3	オプション宣言の終了	8
6	パッケージの読み込み	8
6.0.1	amsmath の読み込み	8
6.1	必須パッケージの読み込み	9
6.1.1	txfonts の読み込み	9

6.1.2	fontenc の読み込み	9
6.2	オプションパッケージの読み込み	9
6.2.1	hyperref 付き pdf の作成の読み込み	9
6.2.2	graphicx の読み込み	9
6.2.3	Color の読み込み	9
6.2.4	moreverb の読み込み	10
6.2.5	thorem の読み込み	10
6.2.6	L ^A T _E X2e オプション	10
7	種々のマクロの定義	10
7.1	名称	10
7.1.1	法人名, 名称等の定義	10
7.1.2	\JSSAC,\Jssac のロゴ定義	10
7.1.3	住所等	11
7.2	数学記号の設定	11
7.2.1	\normal サイズのめの数記号	11
7.2.2	\small サイズののの数記号	11
7.2.3	amsmath.sty で定義されている数学記号	11
7.2.4	雑多な数学記号	12
7.3	一般的なマクロ	12
7.3.1	文字の重ね合わせのマクロ	12
7.3.2	丸で文字を囲む	12
7.3.3	ローマ数字出力	12
7.3.4	均等割り付け	12
7.3.5	右詰めで出力	12
7.3.6	フォント dg の定義	13
7.3.7	\caption の設定マクロ	13
7.3.8	脚注の文字の設定	13
7.3.9	謝辞を記載する環境の定義	13
7.3.10	quotation 環境の定義	13
7.3.11	abstract を記載する環境の定義	13
7.3.12	moreverb 環境の設定	14
7.4	定理環境の設定	14
7.4.1	定理環境の設定	14
7.4.2	証明環境の設定	16
7.5	キーワードの変更	16
7.5.1	定型文字列の設定	16

8	編集に関わる機能	17
8.1	jssac.sty に関わる外部ファイル	17
8.2	headline.tex に記述ためのマクロ	17
8.2.1	原稿の奇数起こしの宣言マクロ	17
8.2.2	目次不掲載の宣言	18
8.2.3	原稿受け取り年月日の設定	18
8.2.4	最終投稿原稿の受け取り年月日の設定	18
8.2.5	採録確定年月日の設定	18
8.2.6	原稿種別の設定	18
8.2.7	タイトルの設定	19
8.2.8	著者名の設定	19
8.2.9	所属の設定	19
8.2.10	メールアドレスの設定	19
8.2.11	旧姓の設定	19
8.2.12	所属名の設定	19
8.3	vol.tex に記述するマクロ	19
8.3.1	年の独自保存	20
8.3.2	月の独自保存	20
8.3.3	日の独自保存	20
8.3.4	会誌名称の設定	20
8.3.5	発行年の設定	20
8.3.6	発行月の設定	20
8.3.7	発行日の設定	20
8.3.8	Copyright 行の年の設定	21
8.3.9	掲載巻設定	21
8.3.10	掲載号設定	21
8.3.11	学会住所	21
8.3.12	編集委員長	21
8.3.13	編集局	21
8.3.14	印刷会社	22
8.3.15	販売者	22
8.3.16	編集奥付けアナウンス	22
8.4	Page.tex	22
8.4.1	原稿のページの記述	22
8.4.2	ファイル名記録	22
8.4.3	原稿の最終ページ設定	22
8.5	Next.tex	23

9	Page dimensions 設定	23
9.1	用紙, 印字面サイズ	23
9.2	インデント等の設定	23
10	フォントの定義	24
10.1	jis Font 使用	24
10.2	\section 等の設定	24
10.3	\subsection 等の設定	24
10.4	\subsubsection 等の設定	25
10.5	\paragraph 等の設定	25
10.6	\subparagraph 等の設定	25
11	デフォルトの長さの設定	25
12	list 環境のスペース設定	26
13	\pagestyle を規定するマクロ群	27
13.1	タイトルページスタイル	27
13.2	本文ページスタイル	28
14	タイトルページの定義	28
14.1	\maketitle の定義	28
14.2	\@maketitle の定義	29
15	トンボ	30
15.1	トンボ設定	31
15.2	トンボ抑制	31
16	初期化処理	31
16.1	\AtBeginDocument 内で実行されるマクロ	31
16.2	スタイルファイル内部で実行される初期化	32
16.2.1	日付の初期化	32
17	終了処理	32
18	page.sty	34
18.1	必要なスタイルファイル	34
18.2	page.sty のヘッダー	34
18.3	if フラグの定義と初期値	34

18.3.1 オプションの設定	35
18.3.2 Editor オプション	35
18.3.3 Tombow オプション	35
18.3.4 Tombowdate オプション	35
18.3.5 HREF オプション	36
18.3.6 オプション宣言の終了	36
18.4 パッケージの読み込み	36
18.4.1 hyperref 付き pdf の作成の読み込み	36
18.5 種々のマクロの定義	36
18.5.1 法人名, 名称等の定義	36
18.5.2 \JSSAC,\Jssac,\CJSSAC,\CJssac のロゴ定義	37
18.5.3 住所等	37
18.6 数学記号の設定	37
18.7 フォントの設定	38
18.8 page の形状設定	38
18.9 vol.tex に記述ためのマクロ	38
18.9.1 会誌名称の設定	38
18.9.2 発行年	39
18.9.3 発行月	39
18.9.4 発行日の設定	39
18.9.5 発行巻数	39
18.9.6 発行号数	39
18.9.7 事務所の所在地	39
18.9.8 印刷業者	40
18.9.9 販売業者	40
18.10 奥付アナウンス	40
18.11 発行人を定めるマクロ	40
18.12 編集委員長を定めるマクロ	40
18.13 編集局を定めるマクロ	40
18.14 原稿分類	41
18.15 タイトル	41
18.16 著者名	41
18.17 Page.tex 記載のマクロ	41
18.18 \author 内の設定の変更	41
18.19 目次掲載の条件設定	42
18.20 目次項目の長さ	42
18.21 種別の構成	42

18.22種別の保存	43
18.23目次項目の出力	43
18.24pagestyle の定義	44
18.25\pd@jsaccc	44
18.26\ps@jssacnc	44
18.27目次・奥付の処理の初期動作	44
18.28奥付を出力するマクロ	45
18.29目的, 範囲の記述の読み込み	45
18.30編集委員名の取得と出力	45
18.31編集委員会からのメッセージ	46
18.32奥付の出力	46
18.33均等割り付け	47
18.34page.sty のファイル終わり	48
19 jis font definition	49
19.1 jis normal font def	49
19.2 jis gothic font def	49
19.3 jis tate normal font def	49
19.4 jis tate gothic font def	49

Index

Numbers written in *italic* refer to the page where the corresponding entry is described; numbers underlined refer to the code line of the definition; numbers in roman refer to the code lines where the entry is used.

Symbols		
\@art 18, 41,	\@Jname . 20, 38, 260,	485, 499, 692,
247, 248, 687, 688	419, 426, 456,	745, 753, 760, 769
\@author . . 19, 41,	491, 665, 803, 848	\@capytype 13, 132
251, 252, 691, 692	\@accepted	\@casubptype 131
\@title . . . 19, 41,	. 18, 246, 471, 505	\@date 487
249, 250, 689, 690	\@addressA 11, 37, 39,	\@day 20, 39,
\@Bureau 40,	672, 676, 806, 856	263, 668, 811, 814
686, 816, 854, 855	\@addressB	\@eaddressA 11, 37
\@Chief 40,	11, 37, 39, 673,	\@eaddressB 11, 37
685, 815, 852, 853	677, 807, 857, 858	\@editorANN 40,
\@CopyrightYear . . .	\@art 18, 41,	46, 682, 818, 843
. 21, 264, 399, 409	248, 461, 495,	\@epublisher . . . 40, 684
\@FName . 22, 41, 276,	688, 730, 744, 759	\@fax 679, 809, 860
574, 695, 762, 766	\@author . . . 19, 41,	\@for 831
	252, 465, 483,	\@ifnextchar 247, 249,

251, 687, 689, 691	\@year 20, 39,	\bgroup 166
\@itempenalty 366	261, 420, 425,	\bigcirc 119
\@listI 26, 373	427, 436, 456,	\box 172
\@listi 26, 368, 373	491, 666, 778, 812	\Bureau . 21, 40, 271, 686
\@listii 26, 374	\@zip 39	
\@listiii 26, 378		C
\@listiv 27, 382		\C 11, 37, 103, 630
\@listv 27, 386	_ 858, 860	\c@page 526, 566
\@listvi 27, 390		\Chief . . 21, 40, 270, 685
\@maketitle	A	\Cht . . 307, 316, 325,
. 29, 442, 447, 449	abstract (environ-	334, 343, 353, 372
\@minipagetrue 164	ment) 146	\CJSSAC 37, 620
\@minus 302,	\abstractname	\CJssac 37, 621
311, 320, 329, 338	. 148, 153, 229, 240	\closein 842
\@month 20,	\accepted . 18, 246, 708	\Cnj 14
39, 262, 667, 813	\acknowledgements . 134	\Color 8, 9
\@num 21, 39, 268,	acknowledgements (en-	\Colorfalse 36
420, 425, 427,	vironment) . . 134	\Colortrue 66
458, 493, 670, 848	\ADDRESSA	\contentsname . . 16, 231
\@page 41, 693,	11, 37, 97, 623, 806	\copyright 399, 409, 778
748, 754, 763, 770	\addressA 39, 672	\CopyrightYear
\@plus 142, 302,	\ADDRESSAE 11, 37, 99, 625 21, 264–266
303, 311, 312,	\ADDRESSB	\Cor 14
320, 321, 329, 338	11, 37, 98, 624, 807	\crrc 118, 119
\@printer	\addressB 39, 673	\crright 12, 129
. 40, 680, 810, 863	\ADDRESSBE	\csname . 92, 93, 616, 617
\@pubdate . 812, 849, 850 11, 37, 100, 626	\Cwd . . 139, 223, 231–
\@publisher	\affil 13, 14, 19, 253, 699	234, 237–240,
. 40, 683, 804, 851	\AimsAndScope.tex . 45	287–292, 354–362
\@received	\Alg 14	
. 18, 244, 467, 501	\AMS 7	D
\@revised	\AMSfalse 32	\DATA 828, 831
. 18, 245, 469, 503	\amsmath 8, 38	\date 560
\@seller 40,	\AMStrue 56	\day 20, 39, 259,
681, 817, 861, 862	\and 13, 698	263, 662, 668, 788
\@startsection	\appendixname . . 16, 237	\DeclareOption
. 301, 306, 310,	\Art 42, 727, 744, 759	. 45, 47, 49–58,
315, 319, 324,	\art . 11, 18, 41, 247, 687	60, 62, 64–68,
328, 333, 337, 342	\AtBeginDocument . .	595, 597, 600, 602
\@tel . 678, 808, 859, 860 31, 44, 521, 785	\DeclareRelationFont
\@tempcnta 566, 567, 569	\AtBeginDvi . . 9, 74, 608 880,
\@tempswattrue 165	\AtEndDocument	881, 889, 890,
\@thanks 443 32, 45, 561, 801	898, 899, 907, 908
\@title	\author	\Def 14
19, 41, 250, 464,	13, 19, 41, 251, 691	\dg 13, 130
482, 498, 690,		\do 831
747, 750, 762, 766	B	
\@vol 21, 39, 267,	\baselineskip 23	E
419, 425, 426,	\Bbb 11, 38, 115, 642	\EDITOR 824,
458, 493, 669, 848	\Bbbs 11, 38, 116, 643	826, 828, 829, 842

<code>\Editor</code>	5	<code>\framebox</code>	172	<code>\ifPP</code>	42, 711, 742
<code>\editorANN</code>		<code>\FVerb</code>	6, 14	<code>\ifSty</code>	3, 41, 478, 562
.. 22, 40, 274, 682		<code>\FVerbb</code>	14, 159, 176	<code>\iftheorem</code>	3,
<code>\Editorfalse</code>	30, 47	<code>\FVleng</code>	158, 172, 176		37, 83, 178, 208, 215
<code>\EditorList.tex</code>	45	<code>\fyear</code>	21, 266, 436	<code>\iftombow</code>	
<code>\Editortrue</code>	35,				3, 35, 38, 59, 61,
45, 46, 590, 595, 596		G			528, 592, 601, 741
<code>\egroup</code>	171	<code>\graphicsfalse</code>	35, 591	<code>\iftombowdate</code>	
<code>\Emp</code>	834, 839	<code>\graphicstrue</code>			3, 35, 39, 593
<code>\empty</code>	760		53, 54, 81, 604	<code>\indexname</code>	16, 234
<code>\ename</code>	19, 256, 705	<code>\gtdefault</code>	24, 297, 649	<code>\InReadfalse</code>	829
<code>\endacknowledgements</code>				<code>\InReadtrue</code>	823
..	135	H			
<code>\endcsname</code>		<code>\HREF</code>	7	J	
.. 92, 93, 616, 617		<code>\href</code>	612, 762, 766	<code>\jintercharskip</code>	
<code>\endFVerbb</code>	14, 168, 176	<code>\HREFfalse</code>	40, 64, 594		127, 128, 872, 873
<code>\endlist</code>	144	<code>\HREFtrue</code>	62, 63, 602, 603	<code>\jis</code>	38
<code>\EndPage</code>	22, 277, 573, 694	<code>\Hyp</code>	14	<code>\JisFontfalse</code>	51, 86
<code>\endProof</code>	220			<code>\JisFonttrue</code>	44
<code>\endquotation</code>	150, 155	I		<code>\jsg</code>	38
<code>\EndtPage</code>	41	<code>\if@filesw</code>	565	<code>\Jname</code>	20,
<code>\endverbatim</code>	169	<code>\ifAMS</code>	3, 32, 70		38, 260, 435, 665
<code>\English</code>	5	<code>\ifColor</code>	36, 78	<code>\jobname</code>	516, 662
environments:		<code>\ifEditor</code>	3,	<code>\JSSAC</code>	10, 37, 94,
abstract	146		30, 35, 48, 396, 590		435, 456, 618, 803
acknowledgements	134	<code>\ifeof</code>	829	<code>\Jssac</code>	10, 37, 95, 619
Proof	215	<code>\IfFileExists</code>			
quotation	136		46, 63, 522–524,	K	
<code>\EP</code>	3, 29, 277, 460, 494,		596, 598, 599,	<code>\Kasane</code>	12, 118
569, 573, 576, 579			603, 791, 802, 819	<code>\Kata</code>	832, 837
<code>\epublisher</code>	40, 684	<code>\ifgraphics</code>		<code>\kintou</code>	12, 47,
<code>\evensidemargin</code>	31		3, 35, 35, 76, 591		122, 223, 231–
<code>\Exp</code>	14	<code>\ifgrapics</code>	9		234, 237–240, 867
<code>\expandafter</code>		<code>\ifHREF</code>	3, 9, 35, 40, 73,	L	
92, 93, 120, 121,			397, 529, 544,	<code>\Langfalse</code>	33
616, 617, 837–839			594, 604, 606, 792	<code>\Langtrue</code>	49, 85
F		<code>\ifInRead</code>	820, 841	<code>\lastbox</code>	170
<code>\FAX</code>	11, 37, 102, 628, 809	<code>\ifJisFont</code>	3, 44, 295	<code>\LatexMode</code>	5, 10
<code>\figurename</code>	16, 225, 235	<code>\ifLang</code>	3, 33, 136, 146,	<code>\LatexModefalse</code>	31
<code>\FileName</code>			179, 209, 222,	<code>\LatexModetrue</code>	50
.	276, 434, 574, 695		280, 300, 309,	<code>\leftmargin</code>	
<code>\FName</code>	41		318, 327, 336,		141, 369, 375,
<code>\fnsymbol</code>	439		345, 453, 492, 554		379, 383, 387, 391
<code>\font</code>	113, 114, 640, 641	<code>\ifLatexMode</code>		<code>\leftmargini</code>	23,
<code>\fontenc</code>	9, 38		3, 31, 84, 417		282, 288, 346,
<code>\footnote</code>	481, 703	<code>\ifmoreverb</code>	3, 34, 82, 157		356, 363, 369, 370
<code>\footnotemark</code>	704	<code>\ifNoTitle</code>	3, 42, 476	<code>\leftmarginii</code>	
<code>\former</code>		<code>\ifnum</code>	832–834		23, 25, 283, 289,
13, 14, 19, 255, 701		<code>\ifOdd</code>	3, 43, 525		347, 357, 375, 376
		<code>\ifodd</code>	525		

\leftmarginiiii	\newtheorem	\PageZ 42, 713, 720
. . . . 23, 283, 290, 180–191, 194–205	\paperheight 23, 278, 653
347, 358, 379, 380	\NO 821, 830, 832–835	\paperwidth 23, 278, 654
\leftmarginip 25	\NoEditor 5	\paragraph 25, 328, 333
\leftmarginiv	\NoHREF 8	\parindent 23, 25
. . . . 23, 25, 284, 291,	\noindent 149, 154	\Plist 577–580
348, 359, 383, 384	\nojis 5	\PPfalse 712
\leftmarginv	\NoPage 18, 42, 243, 712	\PPtrue 738
. . . . 23, 284, 292,	\NoSty 8	\PreArt 43, 730, 732, 736
348, 360, 387, 388	\NoTitle 8	\PRINTER 37, 629, 810
\leftmarginvi	\NoTitlefalse 42	\printer 22, 40, 272, 680
. . . . 361, 391, 392	\NoTiteltrue 65	\Pro 14
\Lem 14	\NoTombow 7, 31, 520	\ProcessOptions 69, 605
\list 139	\num 21, 39,	\Proof 216
\listfigurename	268, 433, 670, 790	Proof (environment) . <u>215</u>
. 16, 226, 232	\number 416, 431, 450,	\proofname
\listparindent 139, 140	459, 460, 494, 16, 210, 212, 218
\listtablename	517, 518, 572,	\ps@jssac 28, 414
. 16, 228, 233	573, 579, 662, 663	\ps@jssaccc 44, 776
\loop 827		\ps@jssach 27, 394
	O	\ps@jssacnc 44, 781
M	\Oddfalse 43	\publisher 40, 683
\m@ne 567	\oddsidemargin 31	
\mail 13,	\OddStart 17, 242, 709	Q
14, 19, 254, 451, 700	\Oddtrue 242	\Q 11, 37, 105, 632
\makebox 799	\office 21, 39, 269, 674	\qed 11,
\maketitle	\oku.tex 45 12, 38, 117, 220, 644
. . . . 28, 430, 446, 557	\oalign 118, 119	\quotation 149, 154
\maketombowbox 519, 664	\openin 826	quotation (environ-
\Maru 12, 119	\openout 571, 578	ment) <u>136</u>
\mathbb 103–112, 630–639	\ORG 10, 36, 90, 92, 93,	
\mcdefault 24,	614, 616, 617, 804	R
296, 298, 648, 650	\ORGE 10, 36, 91, 615, 778	\R 11, 37, 104, 631
\month 20, 39, 258,	\OutPut 570–575	\read 828
262, 662, 667, 787		\received 18, 244, 706
\moreverb 10	P	\refname 16, 224, 239
\moreverbfalse 34	\pagebreak 819	\Rem 14
\moreverbtrue 52	\PageI 42, 714, 721,	\renewenvironment .
\msbmbb 114, 115, 641, 642	747, 748, 752– 138, 147, 152
\msbmbs	754, 763, 768–770	\repeat 842
. . . . 113, 116, 640, 643	\PageItem 43, 737	\RequirePackage . . .
N	\PageIX 42, 718, 725, 70–72, 75–77,
\N 11, 37, 107, 634	747, 750, 762, 765	79, 80, 82, 83,
\Name 833, 838	\PageVI 42, 715, 722	607, 609, 645–647
\newlength 158	\PageVII 42, 716, 723	\revised 18, 245, 707
\newline 696, 729,	\PageVIII 42,	\rightmargin 141
731, 750, 766, 773	717, 724, 753, 769	\Rnum 12, 121
\newread 824	\PageX 719, 726, 743,	\rnum 12, 120
	746, 750, 751,	\romannumeral 120, 121
	758, 761, 765, 767	

S		
\SC 11, 37, 108, 635	\Th 14
\section	24, 134, 301, 306	\thanks 448, 451, 481, 702
\seller	. 22, 40, 273, 681	\the@ck 16, 134, 223, 238
\SN 11, 37, 112, 639	\thefootnote 13
\SP 3, 28, 275,	\theorem 6, 10
	459, 494, 526, 572	\theorembodyfont .. 193
\special 74, 608	\theoremfalse 37
\SQ 11, 37, 110, 637	\theoremstyle 180–191, 194–205
\SR 11, 37, 109, 636	\theoremtrue 55
\StartPage	. 22, 41,	\thisday .. 20, 259, 517
	275, 572, 579, 693	\thismonth 20, 258, 517
\stepcounter 525	\thisyear .. 20, 257,
\Sty 8	416, 431, 450, 517
\Styfalse 41, 68	\title 12, 19, 41, 249, 689
\Stytrue 67	\TMP 831–834
\subparagraph 25, 337, 342	\Tombow . 7, 31, 512, 542
\subsection	24, 310, 315	\Tombowdate 7
\subsubsection 25, 319, 324	\tombowdatefalse .. 39, 59, 61, 601
\SZ 11, 37, 111, 638	\tombowdatetrue ... 35
T		
\tablename	16, 227, 236	\tombowfalse ... 38,
\TEL	11, 37, 101, 627, 808	48, 58, 520, 599, 610
\textheight 31	\Tombowtrue 35
\textsc 95, 467,	\tombowtrue 57,
	469, 471, 501,	513, 592, 597, 598
	503, 505, 619, 621	\topmargin 31
\textwidth 31	\txfonts 9, 38
U		
\unskip 170		
V		
\uppercase 121		
\useeps 6		
\usegraph 6		
W		
\verbatim 166		
\verbatim@line 162, 163		
\verbatim@processline 161		
\voffset 531, 537, 793, 795		
\vol 21, 39,		
267, 432, 669, 789		
Y		
\year ... 20, 39, 257,		
261, 416, 431,		
450, 662, 666, 786		
Z		
\Z 11, 37, 106, 633		
\ZIP 96, 622, 805		
\zip 39, 671		
略社 10, 37		
社団 10, 37		

Change History

v0.6	General: sss.sty by Naoto NIKI ... 1	v10.1	General: correct paper size by T.SAITO 1
v0.7	General: correct error by T. SAITO 1	v2.0	General: add editor mode by T. SAITO 1
v1.0	General: rename sss.sty to jssac.sty by T. SAITO 1	v2.1	General: correct error by T. SAITO 1
v1.1	General: correct some errors by T. SAITO 1	v3.0	General: rewrite macros and create jssac.dtx jssac.ins by T. SAITO 1
v10.0	General: New style file by T.SAITO 1	v3.1	General: Inport to JssacSty by

	T.Saito	1	v6.1		
v3.2	General: rewrite macros and create jssac.dtx jssac.ins by T. SAITO	1	v7.0	General: PRINTER change by T.SAITO	1
v3.3	General: correct English sections macros create jssac.dtx by T. SAITO	1	v7.1	General: Add jssacformat by T.SAITO	1
v3.4	General: correct abstract env. by T. SAITO	1	v7.2	General: Add macro to jssacformat by T.SAITO	1
v3.5	General: create new command No- Tombow by T. SAITO	1	v8.0	General: correct some errors by T.SAITO	1
v3.6	General: add copyright if exists WebTombow by T. SAITO . . .	1	v8.1	General: euc-jp to UTF-8 by T.SAITO	1
v4.0	General: change author and title commdan by T.SAITO	1	v8.2	General: change print size by T.SAITO	1
v4.1	General: change to blackbord char- acter define to mathbb by T.SAITO	1	v9.0	General: Add new if Sty by T.SAITO	1
v4.2	General: change to blackbord char- acter define to mathbb by T.SAITO	1	v9.1	General: Rewrite sty by T.SAITO	1
v5.0	General: add new command month by T.SAITO	1	v9.2	General: small capital and add fyear by T.SAITO	1
v6.0	General: amsmath, total index by T.SAITO	1	v9.3	General: add rewrite date by T.SAITO	1
	General: address change by T.SAITO	1	v9.4	General: add request by T.SAITO	1
				General: add Signatory by T.SAITO	1